



川北朝
鄰編輯

幾何學原礎例題解式

一

双²
686
8



駿河川北朝鄰編輯

幾何學原礎例題解式

明治十三年
八月出版

静岡文林堂上梓



幾何學原礎例題解式

緒言

一 本書を幾何學原礎例題の解式を編輯せし者にして余が生徒に口誦教授せる所の者を筆記せし故に専ら本編の文意不做ひ敢て是を鏝飾せし者迂遠鄙文を答る勿也

一 問題者本編に載せるを以て是を缺く番號に隨て照し視る處に尚復習の爲め卷毎末に數條の問題を附録せ

明治十三年一月

緒言

明治十三年一月

編者識

幾何學原礎卷一 例題解式

駿河 川北朝鄰 編

(三) AB を定直線 小命 是を底邊と 此二倍を邊と
 一 たる ABE たる 二等邊 三角を画く事を求む

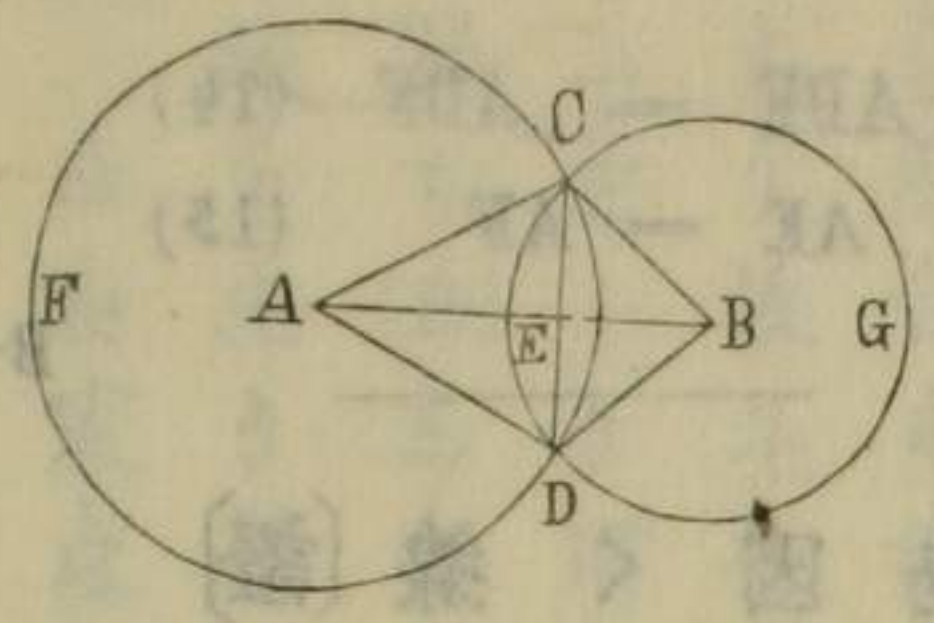
$AC = AB$ (1)
 $BC = 2.AB$ (2)
 $BD = AB$ (3)
 $AD = 2.AB$ (4)
 $BC = AD$ (5)
 $AE = AD$ (6)
 $BE = BC$ (7)
 $AE = BE$ (8)
 $AE - BE = 2.AB$ (9)

(證) AB 線を
 是と等しく
 C 或は D ま
 下引延時
 (1) たる故

(2) あり又 (3) とある故 (4) あり因て (5) とある B 或ひ A を中心と一 BC 或ひ A を半径として CEG, DEF の圓を画く時 E 不於て交るあり AE, BE を結合せ (1.1) 不因て (6) (7) あり (5) 不因て (8) 又 (9) を得るあり故 不 AEB あり二等邊三角の等邊を底線の二倍 不画き得たり

(三) CDE, CDG あり二圓 C 及ひ D 不於て交る者と一 CD を結合せ又各圓の中心 A, B を結合せる時 A, B が CD を直角 不等分せ

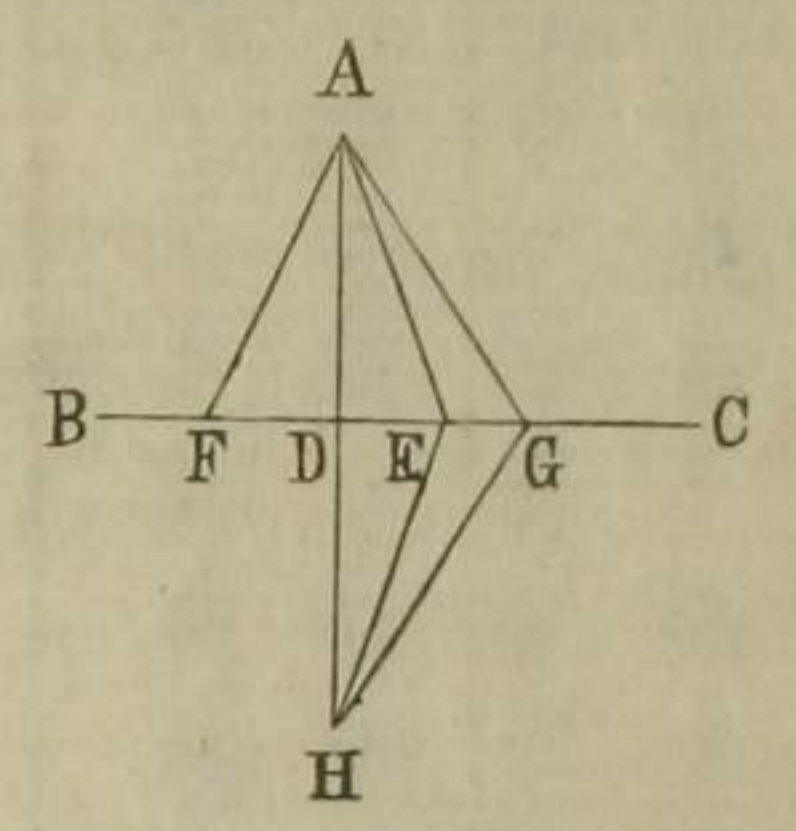
(證) AC, BC, AD, BD を連結せ (1) (2) (3) あり故 (1.8) 不因て (4) あり故 不 (5) とあり而して (1) (5) (6) あり故 (7) あり (D.10) 不因て AEC, AED の各角が直角あり故 不二圓互 不切合 不時あり



- AC = AD (1)
- BC = BD (2)
- AB = AB (3)
- $\triangle ACB = \triangle ADB$ (4)
- CE = DE (5)
- AE = AE (6)
- $\angle AEC = \angle AED$ (7)

其交角云云

(三) A を定点 BC を定直線 不命一 A 点より BC 不垂線 AD を画く時 AD 最 最短 あり直線 あり而して直線 BC へ A 点より AE, AG あり直線 を画く時 AE 最 AG より短 あり而して AD の兩邊 不於て等 一き二個の直線 を画き得る者なり



$$\angle ADE = \angle ADF \quad (14)$$

$$AE = AF \quad (15)$$

- $AD = DH \quad (1)$
- $DE = DE \quad (2)$
- $\angle ADE = \angle HDE \quad (3)$
- $AE = EH \quad (4)$
- $AE + EH > AD + DH \quad (5)$
- $2.AE > 2.AD \quad (6)$
- $AE > AD \quad (7)$

- $AG = GH \quad (8)$
- $AE + EH < AG + GH \quad (9)$
- $2.AE < 2.AG \quad (10)$
- $AE < AG \quad (11)$

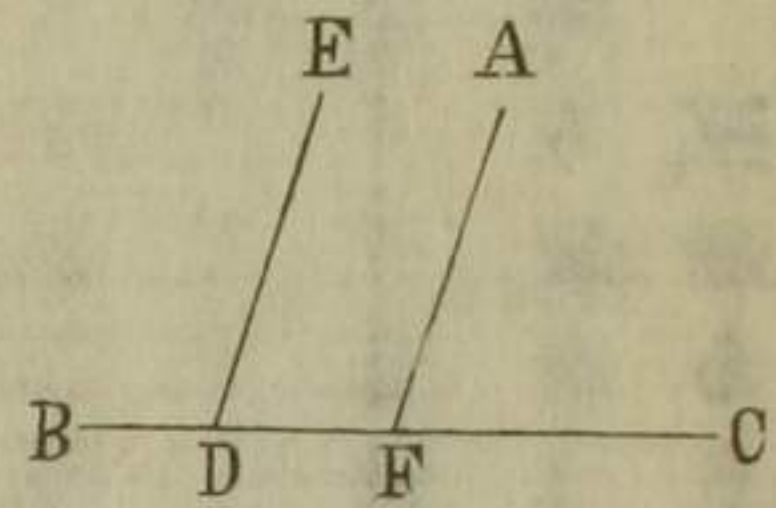
- $DE = DF \quad (12)$
- $AD = AD \quad (13)$

(證) A 点より BC の直線に垂線 AD 及び直線 AE を画く而して AD を H まで AD 不等しく引長し EH を結合せしめ (1) (2) (3) なる故 (14) 不 因て (4) あり (120) 不 因て (5) 又 (6) (7) なる故 不 垂線より最短なる直線あり

GH を結合せしめ前の方法不 因て (8) あり (121) 不 因て (9) 又 (11) あり故に垂線に近き直線より遠き直線より短き直線より短き DF を取り AF を結合せしめ (12) (13) (14) なる故に (14) 不 因て (15) あり依て垂線の両邊に於て等しい二個の直線を描き得るあり

(四) A を定点 BC を定直線に命じ CDE なる定角に等しい角 AFC なる角を為すを欲せしむ

BC 線中 D 点に於て定角に等しい角 CDE 角を作り而して A 点より直線 BC へ ED 不 平行にたる AE を画く時 AFC 角即ち欲する所の角あり (129) 證 DE, AF 不 直線 BC の一方に於て平行にたる故に (129)

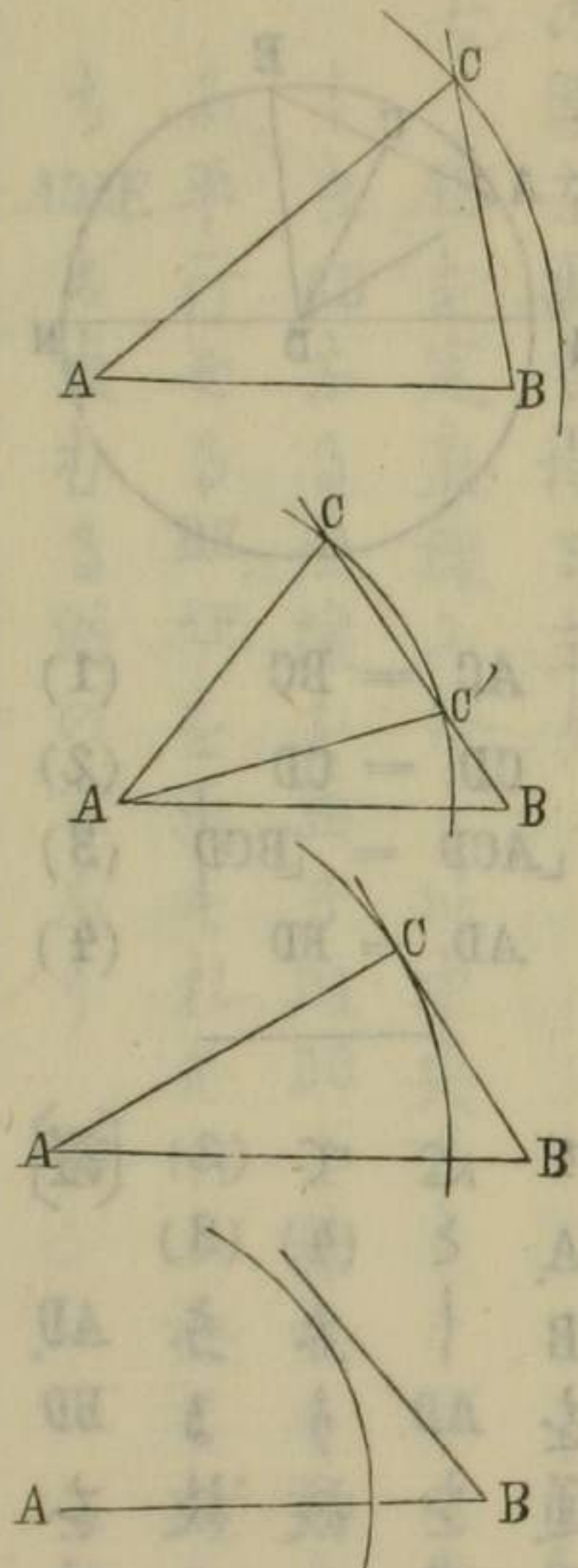


不 因て EDC AFC 角相等し EDC 角を定角不
等しき故に定角より直線を書き定
直線角不等しき角を造り得たり

〔五〕

AB を定角不對せざる定邊とし ABC を定角とし
A 点より他定邊不等しき半徑を以て圓を書き
BC 中 C 不於て交るべし AC を結合せしむ ABC を求
むる所の三角形あり

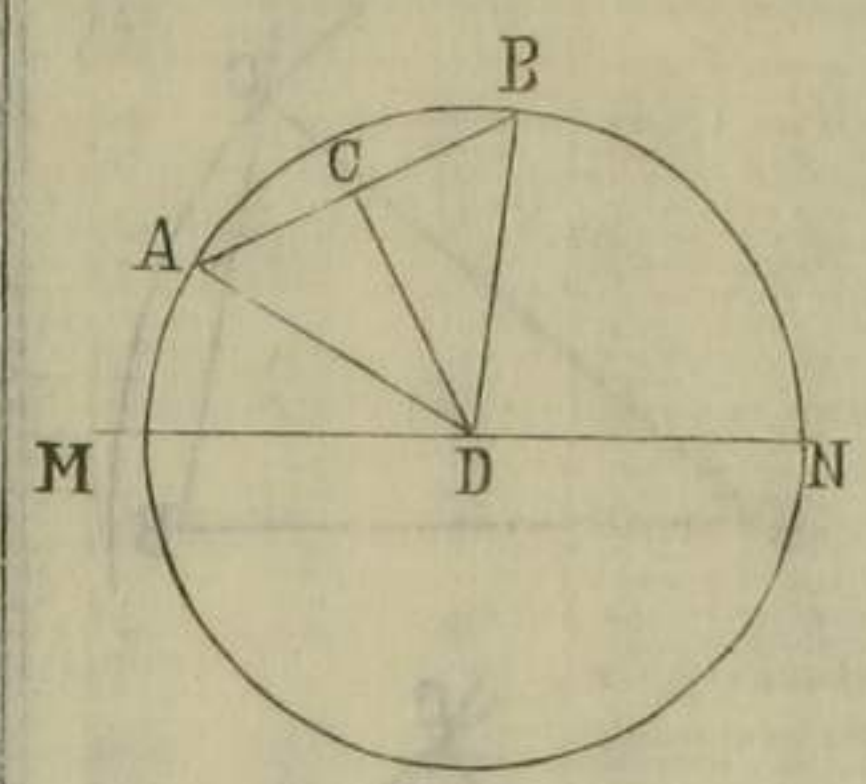
〔證〕 AC 定一邊不等しき中徑ある故に AB AC 共不定
邊にして AC 不對せる ABC 角又定角ある故に二邊及び其



一 邊不對せる角を定めて三角を書き得たり然る共
此の如き方法を行ふと AC の AB より大なる時不於て
のま行ふ者あり若し AC の AB より小なる時は BC 線中
二所不於て画せる所の圓を相交せしむ是れ二個の三角
を求め得べし ○ 又 AC の BC 不觸切せる事あり此時不
於て求めむる所の三角を画し得べし ○ BC 上へ A 点

より画せる垂線より小ある一定邊ある時此三角
を画き能ざるあり

(六) A, B を二個の定点と MN を定直線不命と AB を
結合し此中央 C より垂線 CD を画き MN 不 D 不於て
交らむ D 即ち定直線中不在て A, B の定点を
通過する所の圓の中心あり

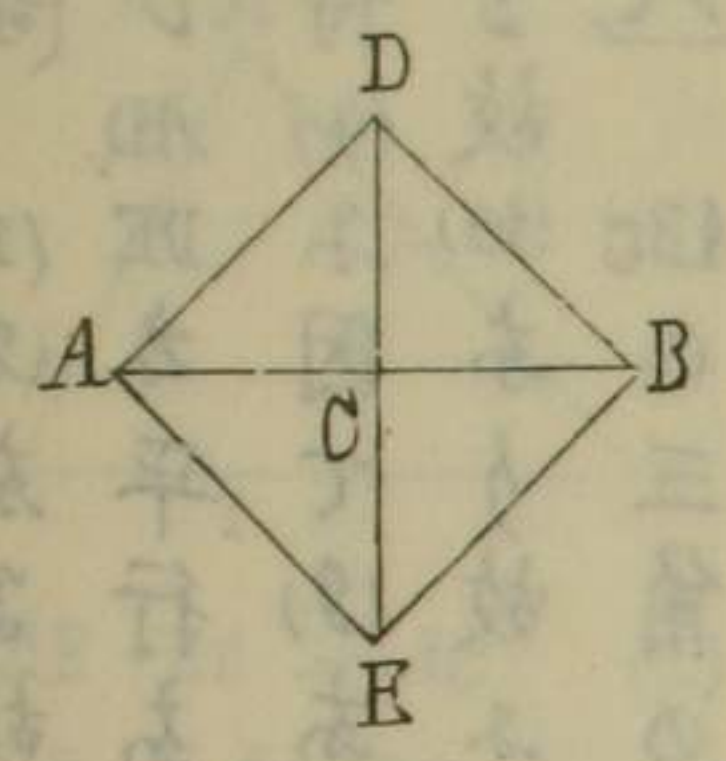


- AC = BC (1)
- CD = CD (2)
- $\angle ACD = \angle BCD$ (3)
- AD = BD (4)

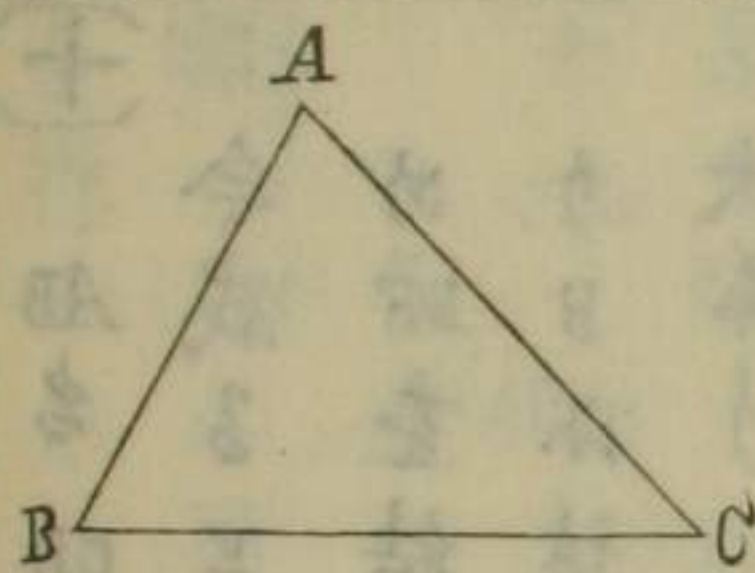
(證) AD, BD を結合せ (1)
て (2) あり故不 D を中
心と (4) あり故不 D を中
て A, B を通過する所

の圓を画き得るあり

(七) AB を定直線不命し此中央 C より AB の半 AC 不等
しき CD あり垂線を画き DA, DB を結合せ而して DA, DB
不平行せる BE, AE を画きれ E 不於て交るへ即
ち ADBE を求むる所の方あり



- AC = CB = CD (1)
- $\angle ACD = \angle BCD = \angle R$ (2)
- $\angle ADC = \angle CDA = \angle R$ (3)
- AD = BD (4)
- $\angle DBA = \angle EAB = \frac{1}{2}\angle R$ (5)
- $\angle DAB = \angle ABE = \frac{1}{2}\angle R$ (6)
- AE = BD (7)
- BE = AD (8)
- AE = BE (9)
- $\left. \begin{aligned} \angle DAE &= \angle AEB = \angle EBD \\ &= \angle BDA = \angle R \end{aligned} \right\} (10)$

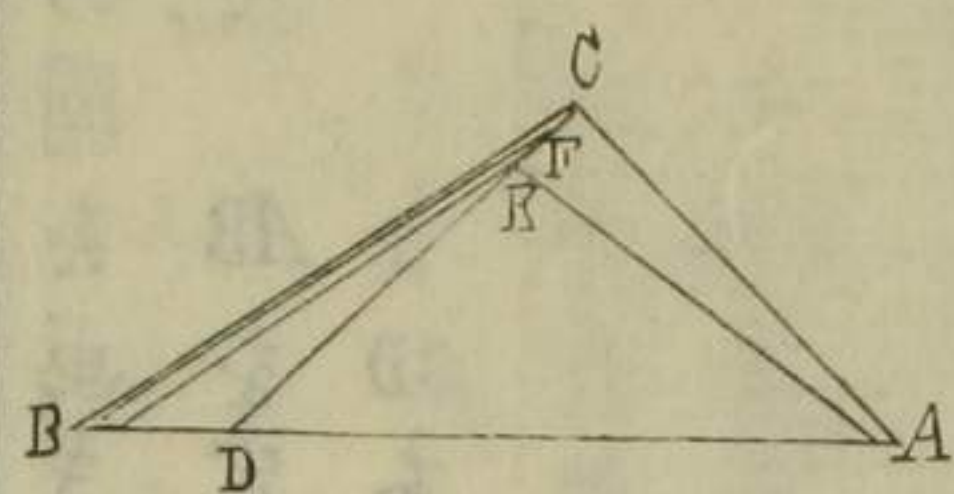


$$AB + BC > AC \quad (1)$$

$$AB > AC - BC \quad (2)$$

(證) (1.20) 小あり
 の兩邊よりACを減せれば(2)あり依て三角形の二邊云

三角の内小画りれD点も底を外る事あり
 (證) (1) 2) 先知と (1.20) 小因て(3) (4)を得(1) (2) 小因て(4)を變(5)を得(3)を減して(6)兩邊互換して(7)を得
 3) 因てABCの三角云
 (九) ABCを三角小命しAC, BC二邊の差も残る一邊ABより小あり



$$AC = DE \quad (1)$$

$$EF = CF \quad (2)$$

$$BC + BD > DF + CF \quad (3)$$

$$BF + BD > DE + FE \quad (4)$$

$$BF + BD > AC + CF \quad (5)$$

$$BF - BC > AC - DF \quad (6)$$

$$DF + BF > AC + BC \quad (7)$$

於て會せべきDCを画きDC小於てDEをAC小等しくありCEをF小於て等分を然る時小其DF, BFを集めてF点もABCの

(證) (1) (2) あり故小 (1.4) 小因て(3) 及び(4) あり又DB, AE 及びAD, BEも平行ある故 (1.29) 小因て(5) (6) あり依て(7) (8) を得(4) 小因て(9) あり然る小DBA, EAB, DAB, ABEも皆直角の半あり故 (10) あり故小ADBEもABを斜邊としたる方形あり

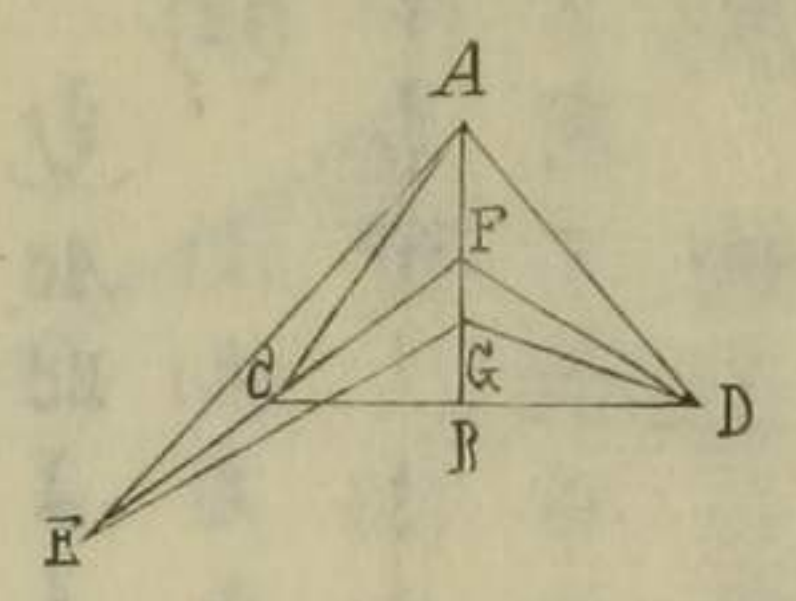
(八) ABCの三角のAC邊小直角小して底線AB小D点小

幾何學原典卷一 題解三

幾何學原序卷一 例題解法

〔十〕

AB 者 CD を B 不於て等分し且つ直立せる者あり
 今或る E 点より C を通して AB 不於て會せし
 め DF を結合せる時者 EF, DF の差者第一 AB の中 F よ
 り B 不遠き G を認め AB 不會すべき EG, DG の差より
 大あり



〔證〕

AB 者 CD 不 B 不於て直角不等分せる故に (2) あり

- EF - FC = EC (1)
- CF = DF (2)
- EF - DF = EC (3)
- CG = DG (4)
- EG - GC < EC (5)
- EG - DG < EC (6)
- EG - DG < EF - DF (7)
- CA = AD (8)
- EA - CA < EC (9)
- EA - AD < EF - DF (10)

依て (1) を變し (3) あり AB 不 G を認め EG, DG, CG を連結せ

前理不因て (4) あり (9) 不因て (5) を得る (4) を以て變し

(6) (3) 不因て (7) あり

第二 EF, DF の差者 AB の中 F より B 不遠き A 不於て AB

不會すべき EA, DA の差より大あり

〔證〕 前理不依て (8) あり (9) 不因て (9) を得 (8) (3) を以て

是を變し (10) を得る依て AB を以て CD 不云

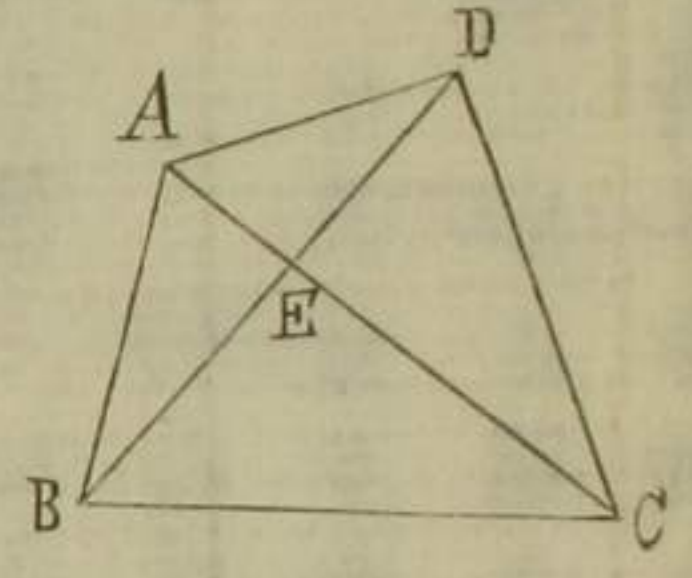
〔十一〕 ABCD を四邊圖不命し斜線 AC, BD の和を AB, BC, CD, DA

の各邊の和より小あり

〔證〕 (1, 20) 不因て (1) (2) を得相併て (3) あり同理不依て (4)

を得 (3) を加へ二除して (5) あり故に四邊圖の斜線の

幾何學原稿卷一 例題解三



$$\begin{aligned}
 (1) \quad & AB+BC > AC \\
 (2) \quad & CD+DA > AC \\
 (3) \quad & AB+BC+CD+DA > 2AC \\
 (4) \quad & AB+BC+CD+DA > 2BD \\
 (5) \quad & \left. \begin{aligned} & AB+BC+CD+DA \\ & > AC+BD \end{aligned} \right\}
 \end{aligned}$$

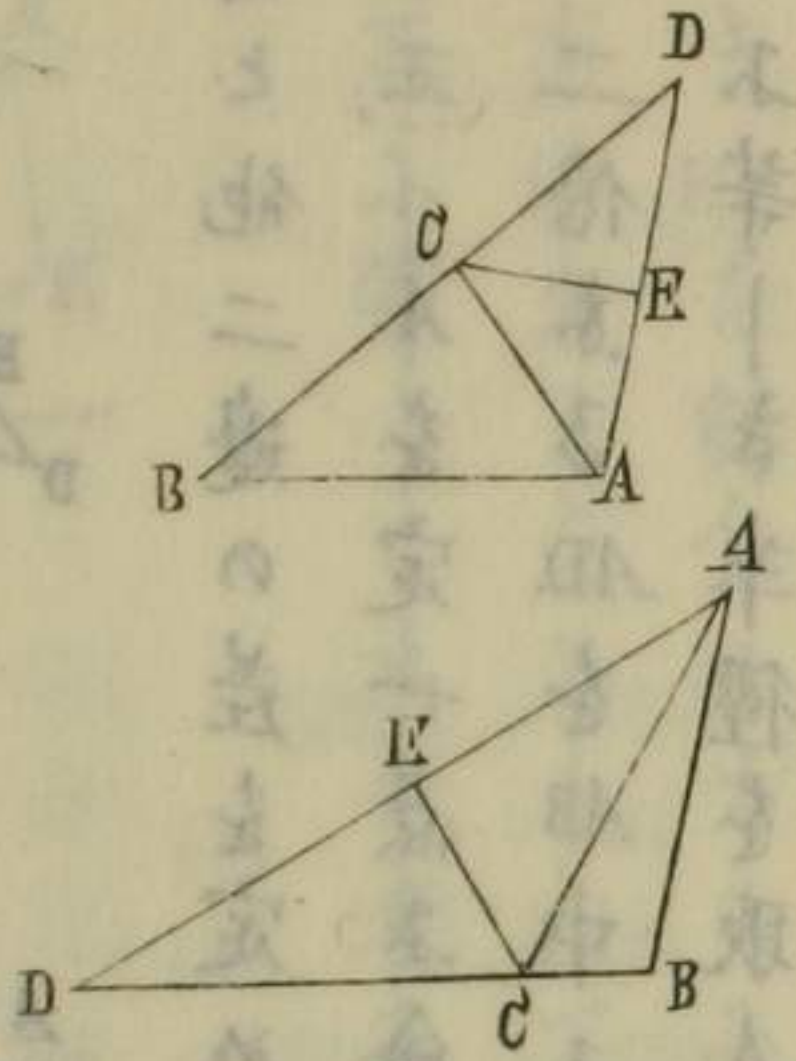
和云

十二

ABを定一邊小ABCを定角小BDを他二邊の和或
 多差小命せ而してAB及びBDを他の二邊とあしABC
 の定角を有ちたる三角を画く事を求む

第一 二邊の和小等しきBCを引長してBDを取りAD
 を結合せ而してADをE小於て等分しEより垂線EC
 を画きBD小C小於て會せしむACを結合せたる時多ABC

多求むる所の三角あり



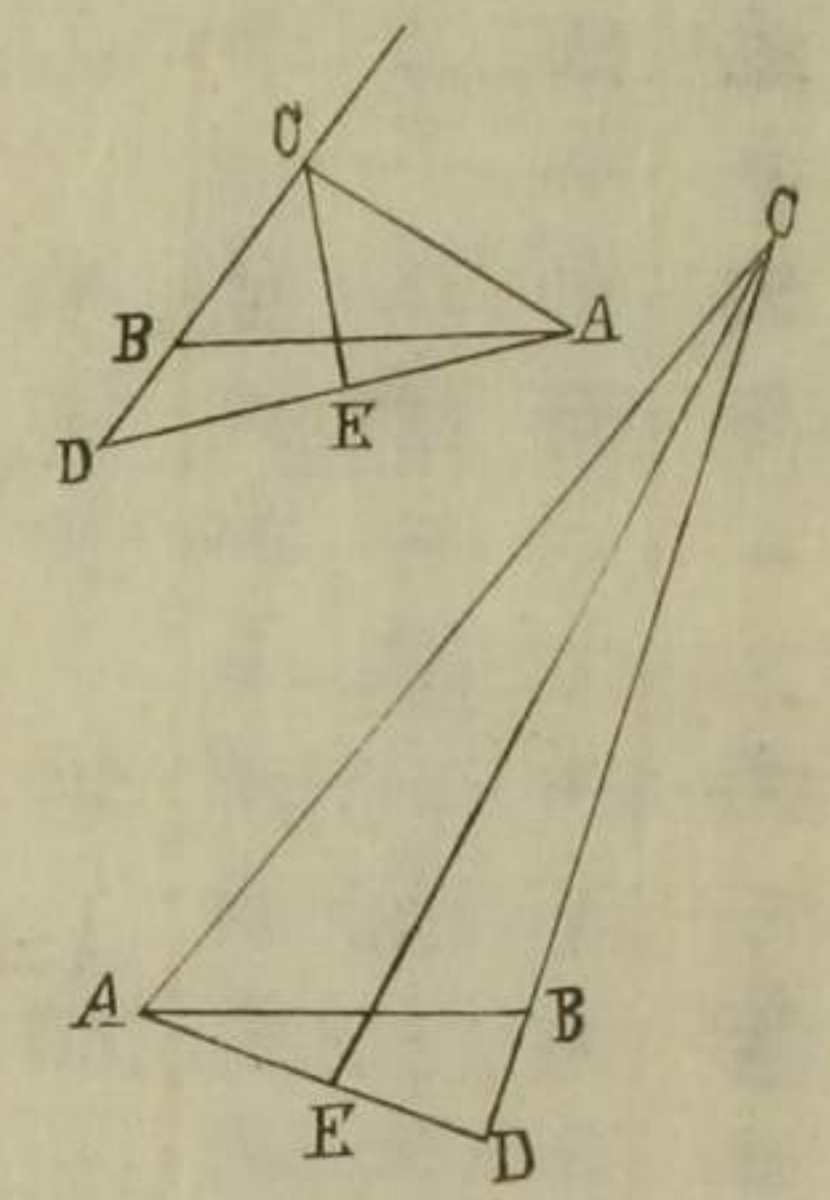
$$\begin{aligned}
 (1) \quad & AE = ED \\
 (2) \quad & \angle AEC = \angle DEC = \angle R \\
 (3) \quad & AC = CD \\
 (4) \quad & AC - BC = BD
 \end{aligned}$$

[證] (1) (2) 小因
 て(3)を得る故
 小(4)あり依て
 一邊と是小隣
 たる一角及び

他の二邊の和を定めて三角を画き得たり

第二 二邊の差小等しきBCを引長してBDを取りAD
 を結合せ而してADをE小於て等分しEより垂線EC
 を画きDC小C小於て會せしむACを結合せたる時多ABC
 多求むる所の三角あり

幾何學原稿卷一 問題解

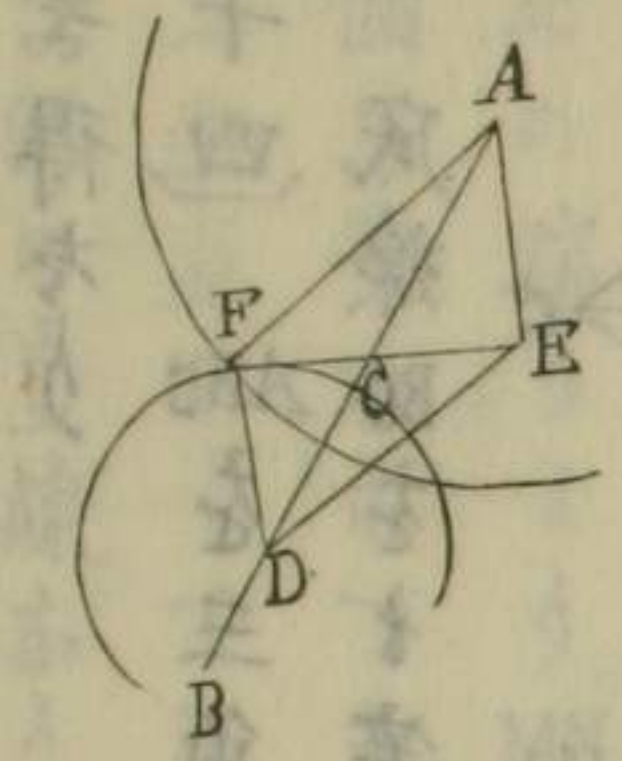


- (1) $DE = AE$
- (2) $\angle DEC = \angle AEC = \angle R$
- (3) $DC = AC$
- (4) $DC - BC = BD$

(證) (1) (2) 不 因 て (3) を 得 る 故 不 (4) あり 依 一 邊 及 び 其 隣

角と他二邊の差を定めて三角を画き得たり
 十三 Aを定一点不命一AよりABを画一定中線不
 二倍あるADをAB中不認めAを中心として最大線
 不等一き半径を取り圓を画き又Dより最小線不
 等一き半径を取り圓を画く時F不於て相交る

べしAF, DFを結合せしめてAF, DF不平行不DE, EAを画
 きEFを結合せしめて不於てAD不交るべし即ち定三
 直線多A点より出てEFの一線上不其端の距離を
 互不等一く為き者あり



- (1) $AF = DE$
- (2) $FD = AE$
- (3) $\angle ADF = \angle DAE$
- (4) $\angle DFE = \angle AEF$
- (5) $\triangle DFC = \triangle AEC$
- (6) $FC = EC$
- (7) $DC = AC$

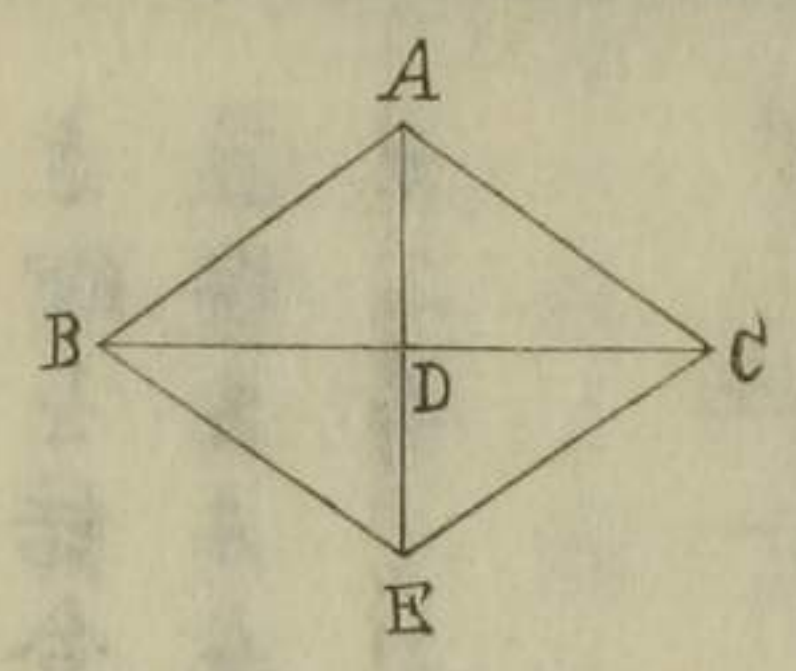
(證) AFDE 不 平 行 四 邊 形 不 あり 故 不 (1.34) 不 因 不 (1) (2) あり 又 (3) (4) あり

故 (1.26) 不 因 て (5) を 得 る 依 不 (6) (7) と あり 然 る 不 AD 多 AC
 DC の 和 不 一 中 線 の 二 倍 あり 故 不 AC 多 中 線 不 等

幾何學原典卷一 例題解

きあり因てA点より出たるAE, AC, AFの三線即ち定
三直線也EFの上其端の距離EC, FCを互に等しく画
き得たり

十四 ABCを三角に命しADの直線がA角を等分し又
底線BCをも等分する時此三角は二等邊あり



キ
(1) (2) (3) 考先知且つ
(1.15) 不
因て(4) ある故不
(5) 又(6) (7)

- $\angle BAE = \angle CAE$ (1)
- $BD = CD$ (2)
- $AD = DE$ (3)
- $\angle ADB = \angle CDE$ (4)
- $\triangle ADB = \triangle CDE$ (5)
- $AB = AC$ (6)
- $\angle BAE = \angle AEC$ (7)
- $\angle CAE = \angle AED$ (8)
- $AC = CE$ (9)
- $AB = AC$ (10)

ECを結合
引長しEB
くEまふ
是と等し
〔證〕 ADを

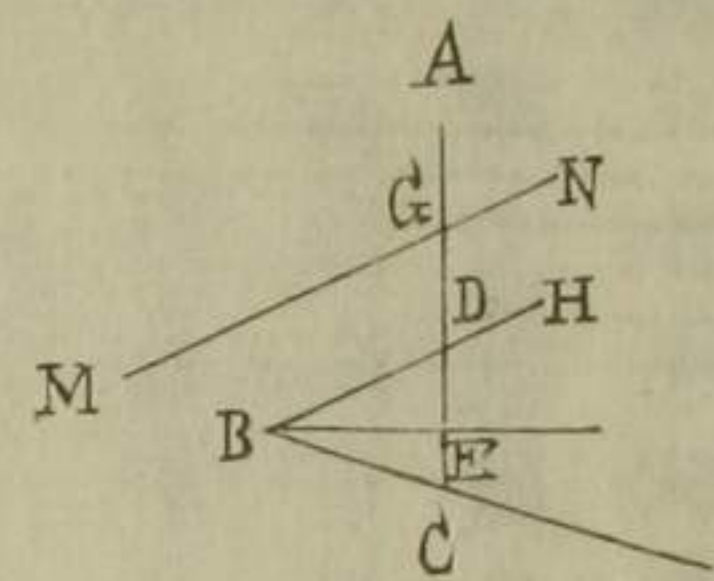
あり(1)不因て(8)故不(9)あり(6)不因て(10)を得る依て
三角の頂角云

十五 Aを定點しBC, MNを二個の定直線に命し定點
Aを通過してBC, MNを會し互に等しき角を為すを

求む

BCの端BよりMNに平行するBDを画しB角を以て二
個に等分すべきBE線を画し而してA点を通過しBE
に垂直にしてBCを會すべきACを画し時即ち求む
る所の直線あり

〔證〕 (1) (2) (3) を定めたる故不(1.26) 不因て(4) あり故不(5)
あり(1.29) 不因て(6) あり(1.15) 不因て(7) あり(6) を以て是を

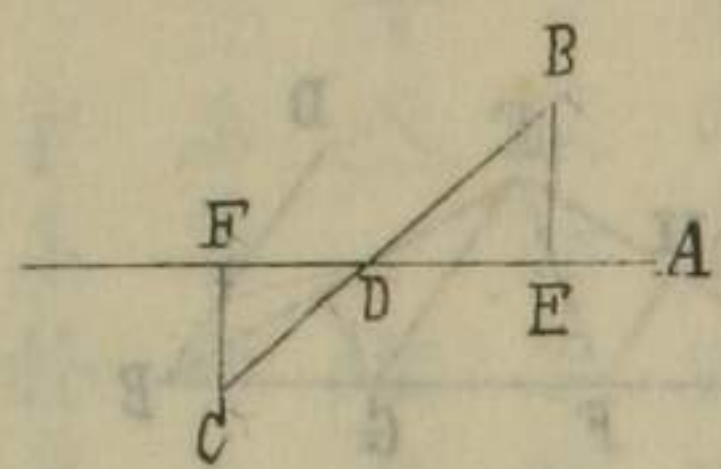


- (1) $\angle DBE = \angle CBE$
- (2) $\angle BEC = \angle DEB$
- (3) $BE = BE$
- (4) $\triangle BCE = \triangle BDE$
- (5) $\angle BCE = \angle BDE$
- (6) $\angle MGD = \angle GDH$
- (7) $\angle GDH = \angle BDE$
- (8) $\angle MGD = \angle BDE$

變(8)を得故不定点を通過一定二直線不會一互不等角

を為すべき直線を書き得たり

〔十六〕 定点Aより画く直線ADにB、Cの定点より画く垂線をして等しくし、めん事を求め、定点B、Cを結合し、中央Dを通過して、定点AよりADの直線画く、而してB及びCよりADに垂線BE、CFを



- (1) $CD = BD$
- (2) $\angle CDF = \angle BDE$
- (3) $\angle DCF = \angle DBE$
- (4) $\triangle CFD = \triangle BED$
- (5) $FC = EB$

〔證〕 (1)を定め(1.15)不因て(2)不因て(3)ある故(1.26)不因て(4)あり依て(5)を得る故、不定点より画く直線、他の

画く時、即ち求むる所の等しき垂線あり

二定点より等しき垂線を書き得たり

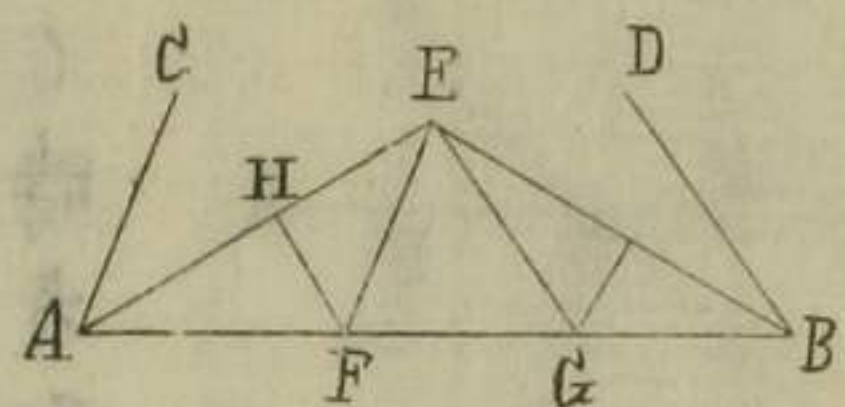
〔十七〕 ABを周圍し、BAC、ABDを二個の底角し、命し、ABを周

圍し、BAC、ABDを底角と為し、たる三角を画く事を求

む

ABの直線の一端Aを角頂とし、定角BACを作り、又他一

端 B を角頂とし定角 ABD を作る而して A 角を平分する所の直線 AF を画し又 B 角を平分する所の直線 BE を画すれば E 不於て交るべし此 E 点より AC, BD 不平行不 EF, EG を画すれば EFG の三角を得る即ち求むる所の三角あり



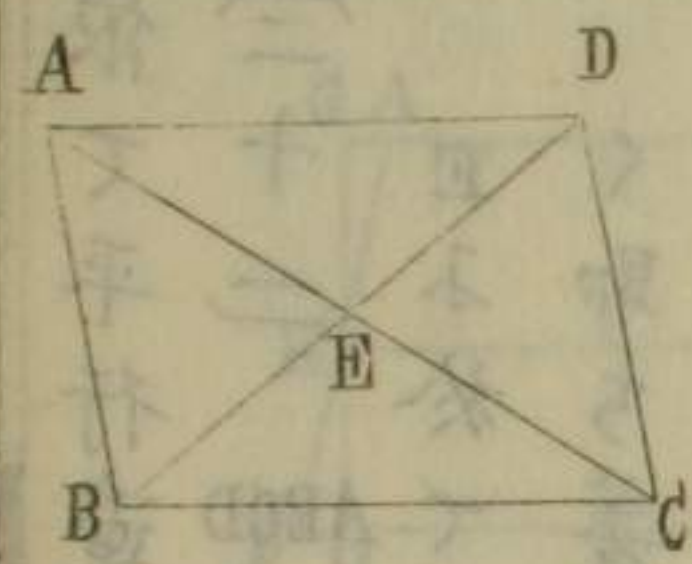
- (1) $\angle CAE = \angle AEF$
- (2) $\triangle AHF = \triangle EHF$
- (3) $AF = EF$
- (4) $\angle CAF = \angle EFG$
- (5) $BC = GE$
- (6) $\angle DBF = \angle EGF$

(證) F より AC 不垂線 FH を画く AC, FE 不平行ある故 (1, 2) 不於て (1) あり故不 $\triangle AHF, \triangle EHF$ 不直三角不して一邊共用する故 (2) あり依て (3) あり

又 (1, 2) 不於て (4) あり同理不於て (5), (6) を得る故不 FEG 不 AB の直線を周圍とし BAC, ABD の二定角を底角とありたる求むる所の三角あり

十八 ABC を三角不命し AB, AC を中央 D, E 不於て直線不等分する線をか不於て會せしめ他の一邊 BC を F 不於て等分する線をか尚又 G 不於て會せしめ

(證) (1) (2) の如く定め AB, AC 不垂線不 DG, EG を画し G より BC 不垂線 GF を画く AG, BG, CG を連結し (4) の如くあり故不 ADG, BDG 不直三角不して二邊相等し依て (5) あり故不 (6) を得る又 (7), (8) あり故同理不於て (9), (10) あり (11) 不於て (12) あり (13) あり故 BFE, CEG 不直三角不

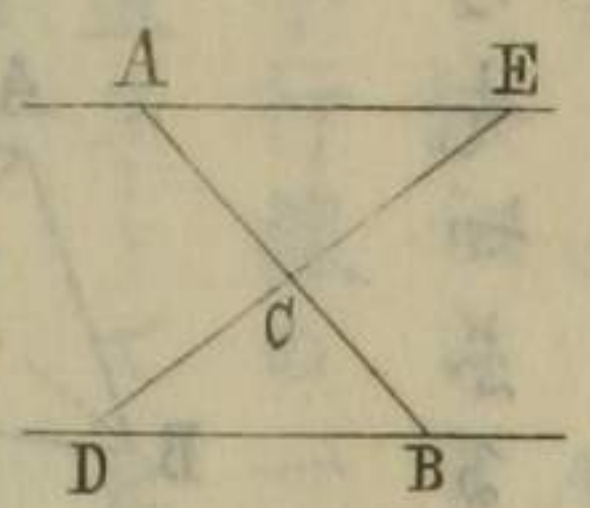


- AD = BC (1)
- ∠DAE = ∠CBE (2)
- ∠ADE = ∠CBE (3)
- △AED = △CEB (4)
- AE = CE (5)
- DE = BE (6)

互に不等分なる者あり
 (1) を先知し
 (2) (3) あり
 (4) あり
 (5) (6) を得る

(三十)

ABCDEF を平行邊形に命し AC, BD の斜邊を E に於て



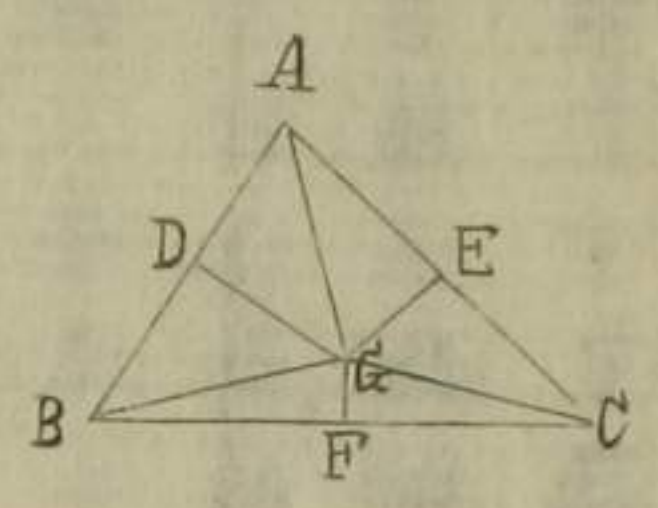
- AC = BC (1)
- ∠EAC = ∠CBD (2)
- ∠ACE = ∠BCD (3)
- △CAE = △CBD (4)
- DC = EC (5)

二線の間云
 故 (5) あり依て平行
 (1, 26) あり
 (4) あり

(證)

(1) 者先知し (1, 29) あり
 (2) あり (1, 15) あり
 (3) あり故

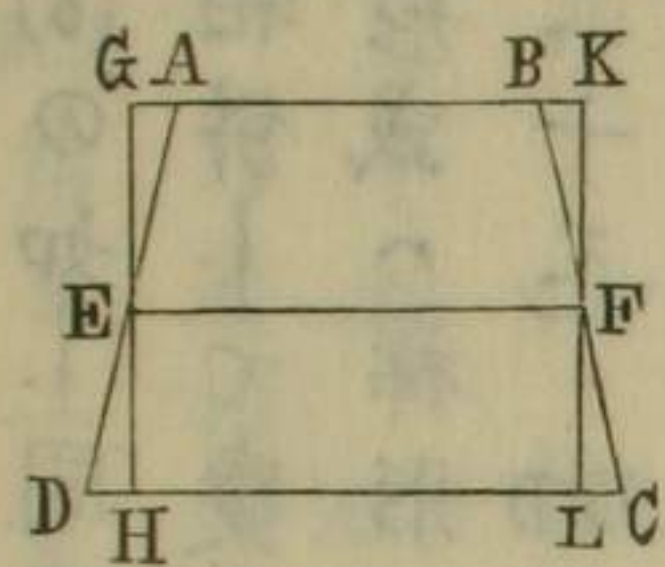
十九 AE, DB の平行二直線の間 AB 直線が此平行線
 不會は時是を等分せし C 点を通りて平行線不會
 其他の DE 線も又 C 点に於て等分せらるべし
 邊を直角云



- AD = BD (1)
- AE = CE (2)
- ∠ADG = ∠BDG (3)
- DG = DG (4)
- △ADG = △BDG (5)
- AG = BG (6)
- ∠AEG = ∠CEG (7)
- EG = EG (8)
- △AEG = △CEG (9)
- AG = CG (10)
- BG = CG (11)
- FG = FG (12)
- ∠BFG = ∠CFG (13)
- △BFG = △CFG (14)
- BF = CF (15)

て二邊相等し依て (14) あり故
 (15) を得る依て三角の

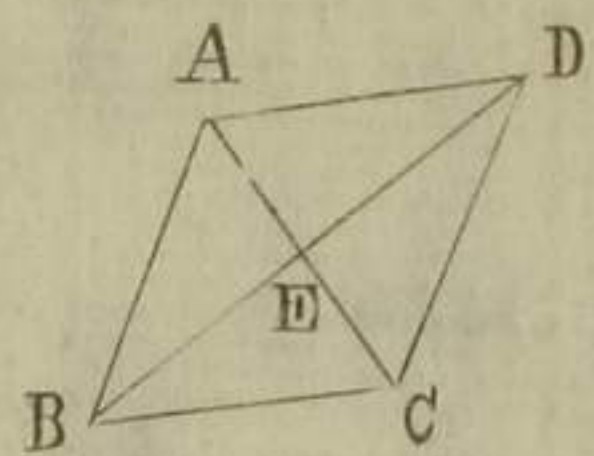
幾何学
 何れも
 原典
 卷
 何れも
 題
 解



- (1) $AE = ED$
- (2) $BF = FC$
- (3) $\angle AGE = \angle DHF = \angle R$
- (4) $\angle AEG = \angle HED$
- (5) $\triangle AEG = \triangle HED$
- (6) $GA = DH$
- (7) $KB = LC$
- (8) $EF = GK = HL$
- (9) $GK = GA + AB + BK$
- (10) $HL = CD - (DH + LC)$
 $= CD - (GA + BK)$
- (11) $2 \cdot EF = AB + CD$
- (12) $EF = \frac{1}{2}(AB + CD)$

三十二 ABCD を梯形に命し AD BC の斜線の中央 E F を結合する線 EF を AB CD の和の半ある者あり平行線の一個短ある AB を G 及び K 不引長し EF 不垂直にして E F を通過する GEH KFL 線を画し平行線の一個長ある DC 不 H 及び L 不於て交るらむ

依て菱形も平行邊形云云
先告知ある故に(5)を變し(7)又(8)あり故に(9)を得る



- (1) $BE = DE$
- (2) $AE = AE$
- (3) $\angle BEA = \angle DEA$
- (4) $\triangle BAE = \triangle DAE$
- (5) $AB = AD$
- (6) $AD = BC$
- (7) $AB = BC$
- (8) $AB = DC$
- (9) $AB = BC = CD = AD$

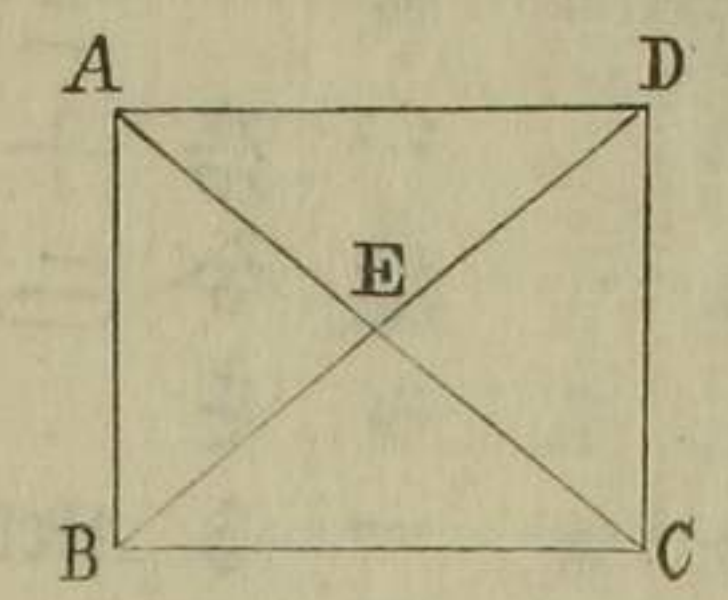
(證) (20) 不因
て(1)を得(2)
(3)ある故(4)
を得る依て(5)あり又(6)

依て平行邊形の斜線云云
三十二 ABCD を平行邊形に命し而して AC BD の斜邊を E 不於て互に直角不等分する時此四邊相等しく即ち菱形あり

幾何學序論卷一
何れも
題解

證 (1) (2) (3) の如き故に (1.15) に因て (4) を得 (5) あり因て (6) の如く同理を推し (7) を得 (8) の如き故に (9) (10) を得相併して變をれ多 (11) とある依て (12) を得る故に袴腰形或は梯形云

二十三 ABCD を平行邊形に命し AC, BD の斜線相等しき時多此平行邊形多矩形あり



- AD = BC (1)
- AB = DC (2)
- AC = BD (3)
- AE = EC (4)
- BE = ED (5)
- AE = ED (6)
- ∠DAE = ∠ADE (7)
- ∠DAE = ∠ECB (8)
- ∠ADE = ∠ECB (9)
- DE = EC (10)
- ∠EDC = ∠ECD (11)
- ∠ADE + ∠EDC = ∠ECB + ∠ECD (12)
- ∠ADE + ∠EDC = ∠ADC (13)
- ∠ECB + ∠ECD = ∠BCD (14)
- ∠ADC = ∠BCD (15)
- ∠ADC + ∠BCD = 2∠R (16)
- ∠ADC = ∠BCD = ∠R (17)

證 (1) (2) (3) 多先知ある故 (20) に因て (4) (5) あり (3) の如き故各の半に等しく (6) あり故に AED の三角多二等邊ある故 (7) あり (1.29) に因て (8) あり故 (9) あり又 (6) の如き故に (10) あり依て (11) あり (9) を加へて (12) あり又 (13) あり故 (15) あり (1.29) に因て (16) あり故 (17) あり依て此平行邊形の隣角各直角ある故斜邊相等しき者多矩形あり

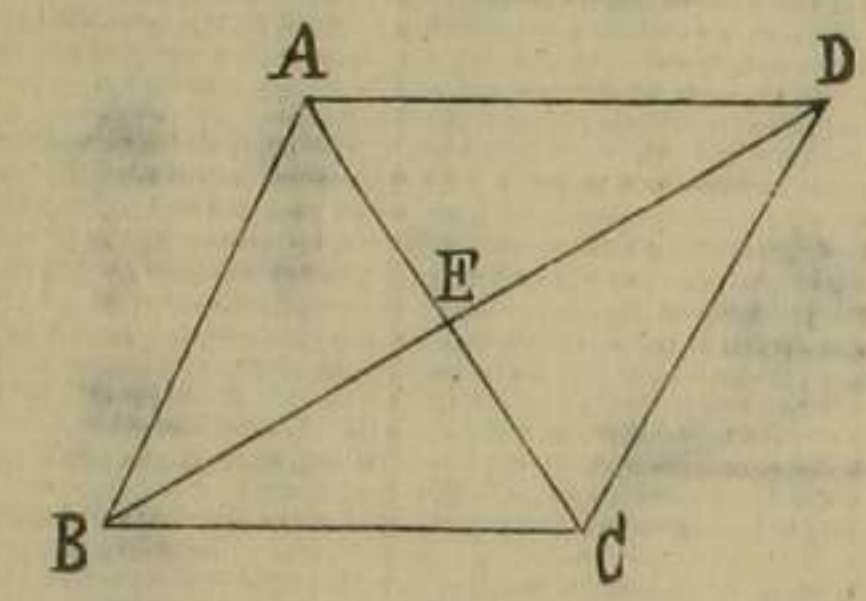
三十四 ABC を二等邊三角に命し BC の底邊を底とし三邊相等しき袴腰形を截るを求む

BCA 角を二等分したる CE 線を AB に E に於て會せしむ E より BC に平行し ED を画き AC に D に於て會せしむ

二十六

第一

ABCの三角B及ひC角をBG、CHを以て二



- $\triangle ABD = \triangle BCD$ (1)
- $\triangle ACD = \triangle ABC$ (2)
- $\triangle ABD = \triangle ABE + \triangle ADE$ (3)
- $\triangle BCD = \triangle BCE + \triangle CDE$ (4)
- $\triangle ACD = \triangle ADE + \triangle CDE$ (5)
- $\triangle ABC = \triangle ABE + \triangle BCE$ (6)
- $\triangle ABD - \triangle ACD = \triangle BCD - \triangle ABC$ (7)
- $\triangle ABE - \triangle CDE = \triangle CDE - \triangle ABE$ (8)
- $2\triangle ABE = 2\triangle CDE$ (9)
- $\triangle ABE = \triangle CDE$ (10)
- $\angle AEB = \angle CED$ (11)
- $AB = CD$ (12)
- $\triangle ADE = \triangle BCE$ (13)
- $\angle AED = \angle BEC$ (14)
- $AD = BC$ (15)

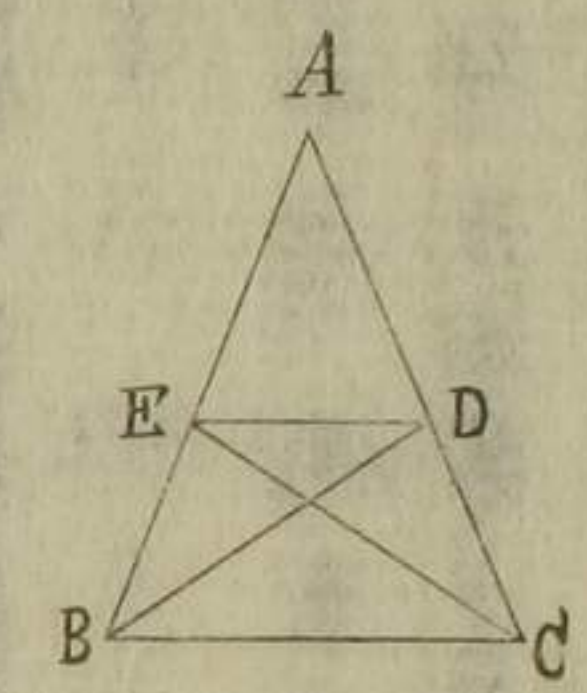
減し(7)を得る(3)
 り又(11)ある故(12)あり(4)
 得る依て互ふ斜線ふ因て云(5)
 云(6)ふ換へ(8)
 依て又(9)
 (13)(14)二除して(10)を
 (15)を

幾何学原稿卷一 問題解法 十六

相等しき袴腰形を截り得たり

二十五

ABCDを四邊圖ふ命しAc或はBdの斜線ふ因て
 等分とある時を平行邊形あり
 證 ABCDの四邊圖をBD或はAcの斜線ふ因て等しく分
 る時を(1)及ひ(2)あり又(3)(4)(5)(6)ある故(1)より(2)を



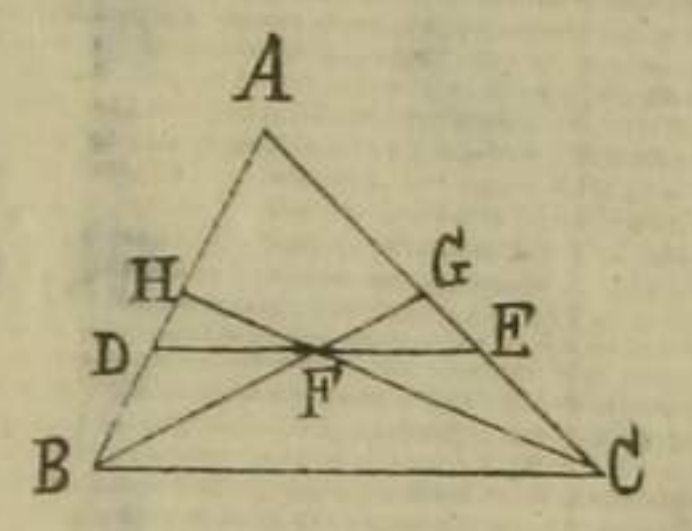
- $\angle BCE = \angle ECD$ (1)
- $\angle DEC = \angle BCE$ (2)
- $\angle ECD = \angle DEC$ (3)
- $ED = CD$ (4)
- $DC = EB$ (5)

等邊三角より三邊
 (5)あり故ふABCの二
 故ふ(3)(4)を得依て
 たる故(129)ふ因て(2)
 證(1)の如く定め

EBCDを求むる所の袴腰形あり

幾何学原稿卷一 問題解法

等分する時を二線をFに於て交るべし此交点を
通して底線BCに平行するDE線を画せられたD、Eに
於てAB、ACに會せしむ是れ即ちBD、CEの和に等しき
あり



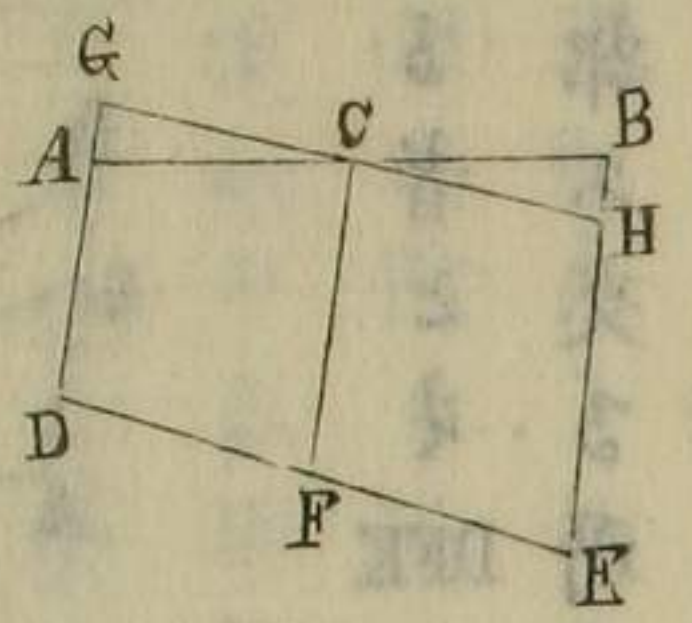
- $\angle CBG = \angle ABG$ (1)
- $\angle BCH = \angle ACH$ (2)
- $\angle CBG = \angle BFD$ (3)
- $\angle ABG = \angle BFD$ (4)
- $BD = DF$ (5)
- $CE = EF$ (6)
- $DE = DF + EF$ (7)
- $DF + EF = BD + CE$ (8)
- $DE = BD + CE$ (9)

を得る同方法に依て(6)を得(5)を加へ(8)とあり(7)あり

(1) (2) の如く定めBC、DEを平行ある故に(1.29)に因て(3)にあり故に(4)とあり(5)にあり

る故に(9)を得るあり故にABCの三角の底線BCに平行
しDE線を画きD、Eに於てAB、ACに會するDE線を
BD、CEの和に等しくあり得たり
第二ABCの三角に於てC角の外角ACF角を作り是とB
角をCG、BGを以て二等分する時を二線がGに於て交
會せしむ此交点を通して底線CBに平行するGED線を
画せられたE、Dに於てAC、ABに會せしむ是即ちEDをBD
CEの差に等しきあり
〔證〕 (1) (2) の如く定めBC、DEを平行ある故に(1.29)に因て
(3) あり故に(4)とあり(1.6)に因て(5)を得る同方法に因
て(6)を得る(5)を減し(8)とあり(7)を變じて(9)を得る

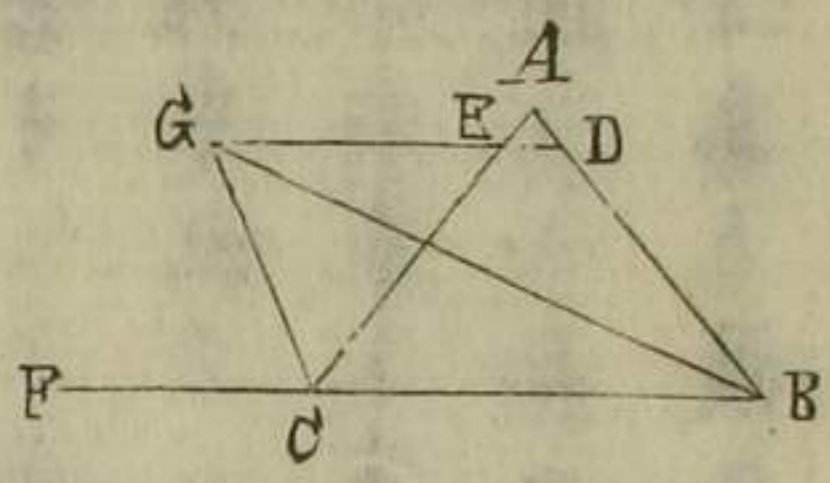
第一 ACB の相對する方不於て AD, CF, BE の平行する者と
 平行する時多 CF 者 AD, BE の和半不等
 二除して (10) を得る故不 ACB の一方不於て AD, CF, BE の各
 ある故不 (7) あり因て (8) を得る又 GCFD, CHEF 者共不平行邊形
 不因て (5) あり因て (6) を得る又 GCFD, CHEF 者共不平行邊形
 あり故不 (7) あり因て (8) を得る又 GCFD, CHEF 者共不平行邊形
 二除して (10) を得る故不 ACB の一方不於て AD, CF, BE の各
 平行する時多 CF 者 AD, BE の和半不等
 第一 ACB の相對する方不於て AD, CF, BE の平行する者と



$$\begin{aligned}
 GD &= HE & (1) \\
 AC &= CB & (2) \\
 \angle ACG &= \angle BCH & (3) \\
 \angle CAG &= \angle CBH & (4) \\
 \triangle ACG &= \triangle BCH & (5) \\
 AG &= BH & (6) \\
 AD + AG &= CF = BE - BH & (7) \\
 AD + AG + BE - BH &= 2CF & (8) \\
 AD + BE &= 2CF & (9) \\
 CF &= \frac{AD + BE}{2} & (10)
 \end{aligned}$$

先不 (2) あり
 故不 (1.15) あり
 因て (3) あり
 因て (4) あり
 故不 (1.26) あり

證 画されを GCFD 者平行邊形不して DA, BE 不交る所の GCH を
 とも然る時多 CF 者 AD, BE の和半不等一あり
 第二 ACB の一方不於て AD, CF, BE の平行する者
 二十七 第一 ACB の一方不於て AD, CF, BE の平行する者
 あり故不 ABC の
 三角の底線 BC
 不平行不 DE 線
 を画き D, E 不
 於て AB, AC 不會
 する DE 線を



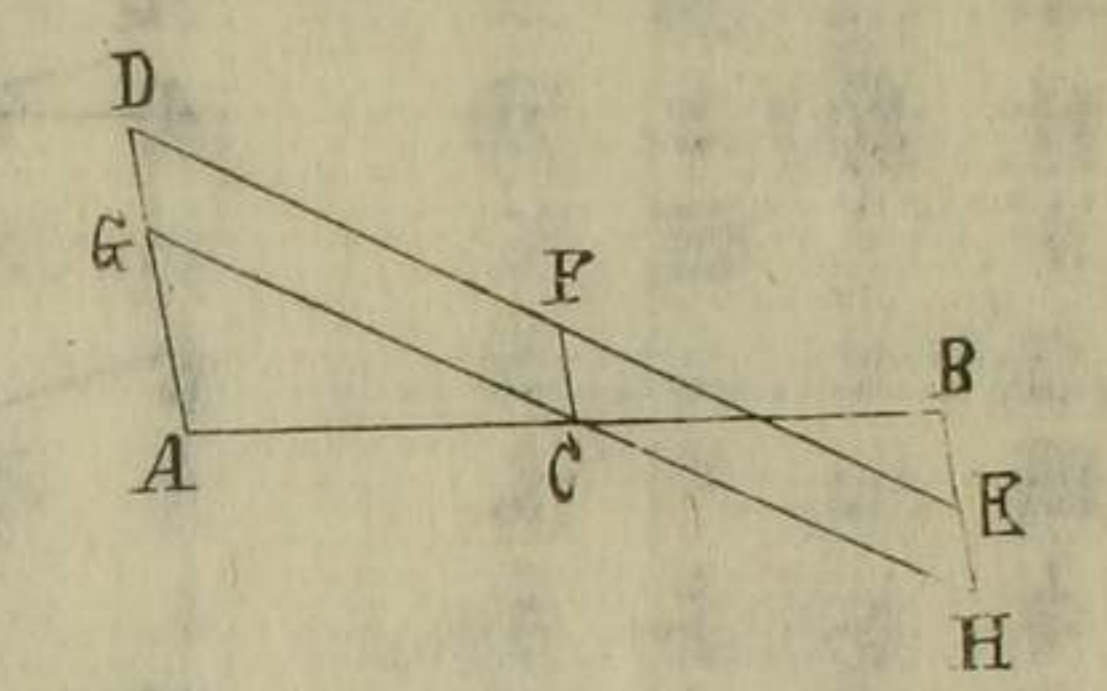
$$\begin{aligned}
 \angle ACG &= \angle FCG & (1) \\
 \angle CBG &= \angle ABG & (2) \\
 \angle FCG &= \angle CGD & (3) \\
 \angle ACG &= \angle CGD & (4) \\
 EG &= CF & (5) \\
 DG &= BD & (6) \\
 DE &= DG - EG & (7) \\
 DG - EG &= BD - CF & (8) \\
 DE &= BD - CF & (9)
 \end{aligned}$$

あり故不 ABC の
 三角の底線 BC
 不平行不 DE 線
 を画き D, E 不
 於て AB, AC 不會
 する DE 線を

幾何學原典卷一 例題解法

幾何學原典卷一 問題解代

是然る時とて CF 是 AD BE の差半に等しうるべし



$$\begin{aligned} \angle ADE &= \angle GHB & (11) \\ \angle ADE &= \angle AGC & (12) \\ \angle AGC &= \angle GHB & (13) \\ \triangle AGC &= \triangle BCH & (14) \\ AG &= BH & (15) \\ AD - AG &= CF = BH - BE & (16) \\ AD - AG + BH - BE &= 2.CF & (17) \\ AD - BE &= 2.CF & (18) \\ CF &= \frac{AD - BE}{2} & (19) \end{aligned}$$

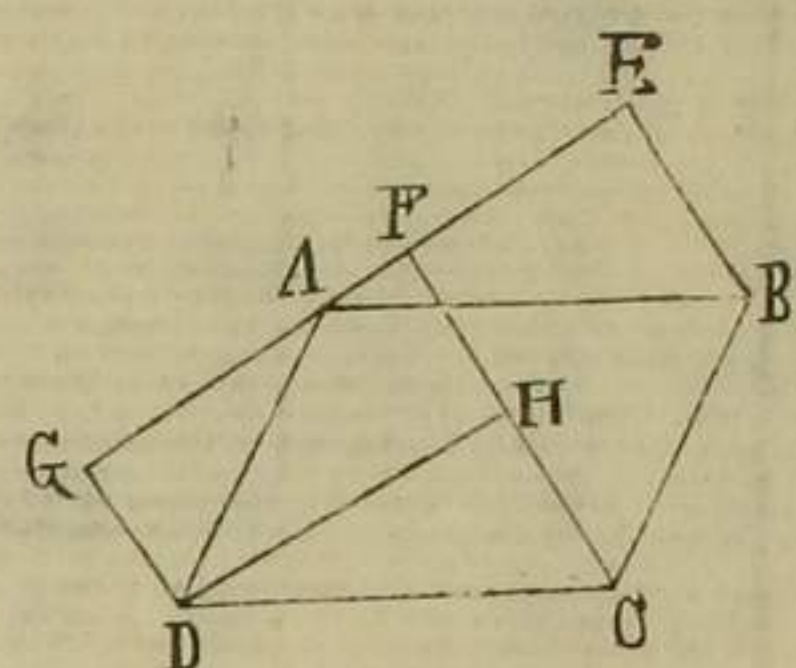
(2) 部者とま DFE 不平行し C 点を通りて AD 及び BE の引長
 (3) の如く GCH を画せしむる DEHG 是平行邊形にして (1)
 (1.34) 不因而 (11) あり (1.29) 不因而 (12) あり故に (13)

[證] ACB の一方に於て AD 是 CF 不平行し他の一方に於て BH 不平行し

を得又 (1.26) 不因而 (14) を得依て (15) あり DEHG 是共不平行邊形ある故に (16) あり因て (17) を得 (15) 不因而是を變し (18) 二除して (19) を得る故に ACB の相對する方より於て AD, BE の各平行する時とて CF 是 AD, BE の差半に等し

二十八 第一 ABCD の平行邊形の A 点を通りて此形の
 外方へ EAG の直線を描し是れは B, C, D 点より垂直
 不 BE, CF, DG の各線を描ししむる CF 是 BE, DG の和に等し
 うるべし

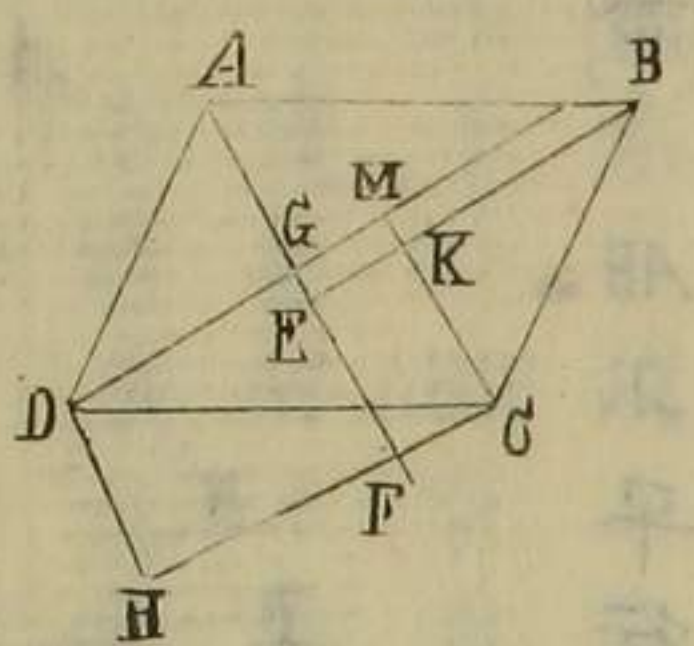
[證] D より GAE 不平行し DH を画し CF 不 H 不於て交り
 らしむ而して (1) (2) あり故に (3) を得 (4) あり又 (5) あり
 (6) の如き故に (4) (5) を以て (7) を得る依て ABCD の平行邊形



- $AB = CD$ (1)
- $\angle AFB = \angle DHC = \angle R$ (2)
- $\triangle ABE = \triangle CDH$ (3)
- $BE = CH$ (4)
- $HF = GD$ (5)
- $BF = CH + HF$ (6)
- $CF = BE + GD$ (7)

のA点を通り
て此形の外方
へ引きたる直
線へB, C, D点
より垂直線を
画すれをC点

よりの距離をB, Dよりの距離の和に等しきを證明せり
第二 $ABCD$ の平行邊形のA点を通りて此形の内方への直線を書し是れをB, C, D点より垂直にBE, CF, DGの各線を書きれをCFをBE, DGの差に等しきとす



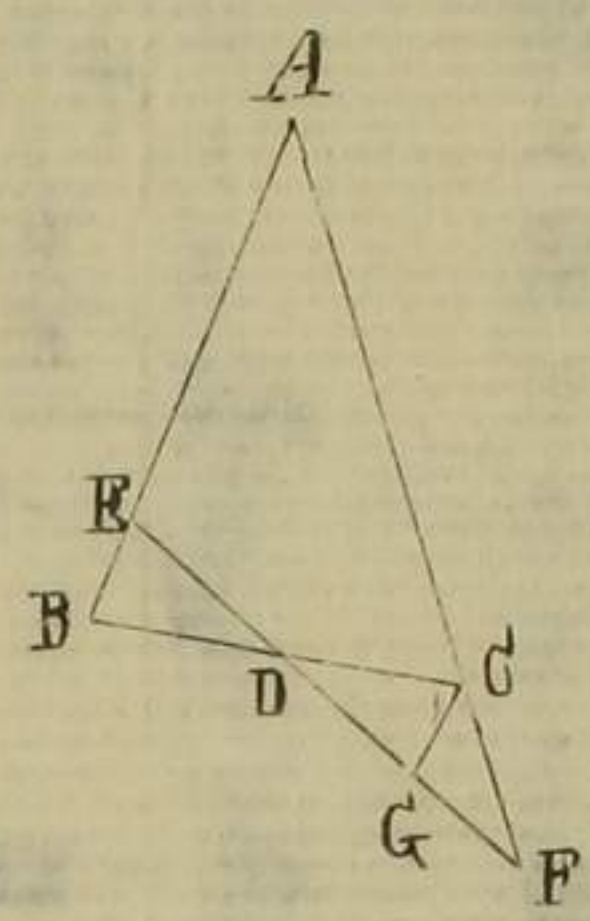
- $CF = KE = GM$ (8)
- $HG = DM$ (9)
- $HF = DG$ (10)
- $MG = DM - DC$ (11)
- $CF = HG - HF$ (12)

(證) FEA は平行な
る故 CF を画すれを CF へ
あり又 AEF へ平行な
あり MKC へ DH へ平行な
あり依て (9) (10) あり

圖に據て (11) あり故に是を變りて (12) を得る依て $ABCD$ の平行邊形のA点を通りて此形の内方へ引きたる直線へB, C, D点より垂直線を書きれをC点よりの距離をB, Dよりの距離の差に等しきを證明せり
(二十九) Aを頂角としたる二個の ABC AEF を三角に命

幾何學原典卷一

一 EF の底邊を BC の底邊より小於て二等分する者
 とす然る時 BC の底邊を EF の底邊より最小小
 て ABC の三角を AEF の三角より小ある者あり



- (1) $BD = DC$
- (2) $\sphericalangle BDE = \sphericalangle CDF$
- (3) $BE = CG$
- (4) $\triangle BDE = \triangle CDG$
- (5) $\sphericalangle BDE < \sphericalangle CDE$
- (6) $\square AEDC + \triangle BDE = \triangle ABC$
- (7) $\square AEDC + \triangle CDF = \triangle AEF$
- (8) $\triangle ABC < \triangle AEF$
- (9) $BC < EF$

證 AB 不平行不 CG を書き不於て EF 不交らむ
 (1) の如く定めたる故不 (1.15) 不因て (2) (1.29) 不因て (3) 故不

(4) あり圖不據て (5) を得 (6) (7) あり故不 (8) を得る依て
 (9) あり故不許多の三角が頂角云云

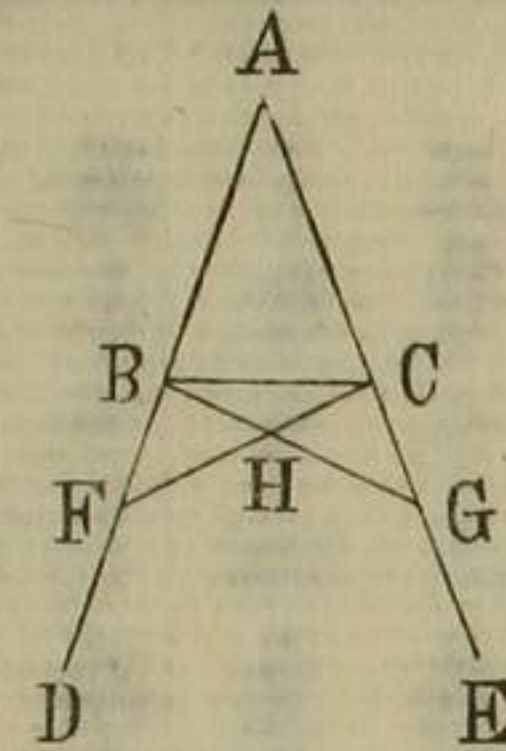
三十 ABCD を方形不命一 AC を斜線とす而して AB の方
 邊を AC 不等しく E まる引長一 E より BC 不平行お

る線を画す是を AC の引長部不 F 不於て交らむべ
 一然らむ AEF の三角を ABCD の方形不等一あるべし

證 AF 不 E より垂線 EG を画すれを AEF 三角不於て A

角を直角の半不して E 角を直角ある故 (2) 即ち直角
 の半あり而して (3) (4) あり故 AGE EFG 也 (1.6) 不因て二等邊
 三角あり依て (5) あり又 (1.4) 不因て (6) あり (7) (8) を得る
 (1.5) 不因て (9) あり故 (10) を得る然る不 AEG ABC 兩三角を
 ABHG

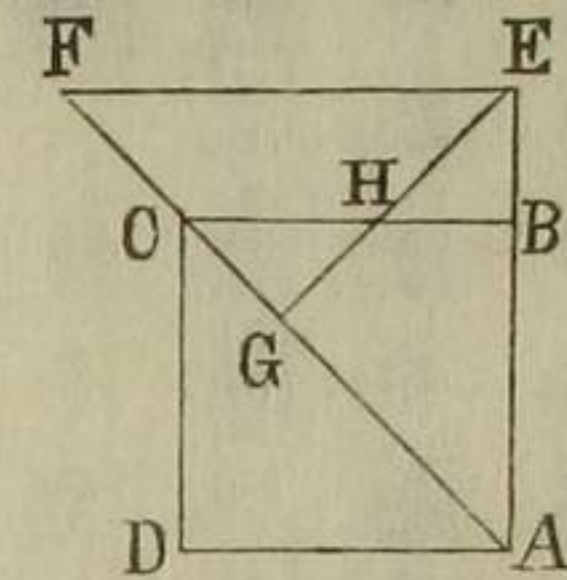
故 (證) (1) (3) (1.32) (4) (5) (3) (6) (2) (3) (1) (2) (3) (4) (5) (6) (7) (8) (9) (10)



$$\begin{aligned} \angle FBG &= \angle ABC & (1) \\ \angle ABC &= \angle ACB & (2) \\ \angle FBG &= \angle ACB & (3) \\ \angle CBE &= \angle BAC + \angle ACB & (4) \\ \angle CBG + \angle FBG &= \angle BAC + \angle ACB & (5) \\ \angle CBG &= \angle BAC & (6) \\ \angle CBG &= \angle BCH & (7) \\ \angle BHF &= \angle CBG + \angle BCH & (8) \\ \angle BHF &= 2 \angle CBG & (9) \\ \angle BHF &= 2 \angle BAC & (10) \end{aligned}$$

三十一 考定第五圖 於て ABG, CFB, H 於て切合 FBG, ABC の角相互小等き時 於て BHF の角 於て BAC の角の二倍 於て

ABCD の四邊圖へ相等しき HBE, CGH 三角を加へし者ある故 (11) あり又 (6) 不因て (12) とあり (13) ある故 (14) を得る依て 行ふ直線を書き又他の一邊 AB の引長部 不畫りて成 せぬ 三角を引長し其端より方の一側 AD 不 行ふ直線を書き又他の一邊 AB の引長部 不畫りて成 せぬ 三角を引長し其端より方の一側 AD 不



$$\begin{aligned} AC &= AE & (1) \\ \angle FEG &= \angle AEG & (2) \\ \angle EGF &= \angle EGA & (3) \\ \angle EAF &= \frac{1}{2} \angle R & (4) \\ AG &= EG = GF & (5) \\ \triangle AGE &= \triangle EFG & (6) \\ \angle CGH &= \angle EBH = \frac{1}{2} \angle R & (7) \\ \angle CHG &= \angle EHB = \frac{1}{2} \angle R & (8) \\ CG &= EB & (9) \\ \triangle CGH &= \triangle HBE & (10) \\ \triangle AGE &= \triangle ABC & (11) \\ 2 \triangle AGE &= \triangle AEF & (12) \\ 2 \triangle ABC &= \square ABCD & (13) \\ \square ABCD &= \triangle AEF & (14) \end{aligned}$$

幾何學原典 卷之三十一 問題三十一 幾何學原典 卷之三十一 問題三十一

幾何學原典 卷之三十一 問題三十一

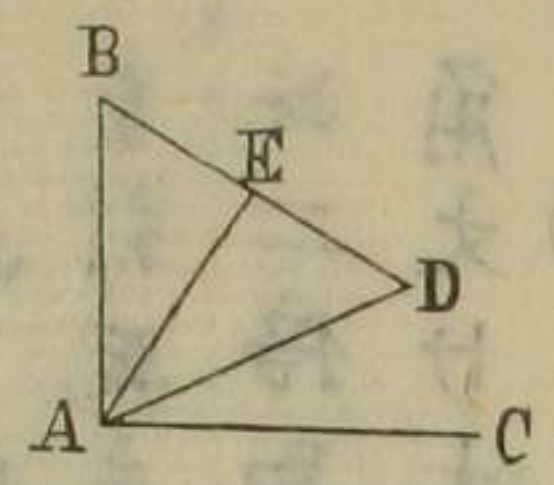
幾何學原典卷一 例題解式

り (1.5) 不因て (7) あり (1.32) 不因て (8) を得 (7) 不因て (9) (6) 不
 因て (10) あり故不 BHF の角名 BAC の角の二倍ある事を證
 明せり

三十三

BAC を直角と一 AB の一邊上 不等邊三角 ABD を
 画せべし 而して BAD 角を等分せる所の AE を画せべ
 し 即ち BAC 直角の AE 及び等邊三角の一邊 AD を以て
 三等分不為し得たり

(證) ABD 不等邊三角ある故不其一角 BAD 名 (1) の如く又
 是れを二等分せる故不 (2) の如く故不 (3) (4) を得る依
 て (5) あり茲不於て是を視れを BAC あり直角を三分せ
 し BAE EAD DAC あり角の各直角の三分一あり故不等し



$$\begin{aligned} \angle BAD &= \frac{2}{3}R & (1) \\ \angle BAE &= \angle DAE & (2) \\ \left. \begin{aligned} \angle BAE &= \frac{1}{2}\angle BAD \\ &= \frac{1}{3}R \end{aligned} \right\} & (3) \\ \angle DAE &= \frac{1}{3}R & (4) \\ \left. \begin{aligned} \angle DAC &= R - \angle BAD \\ &= R - \frac{2}{3}R \\ &= \frac{1}{3}R \end{aligned} \right\} & (5) \end{aligned}$$

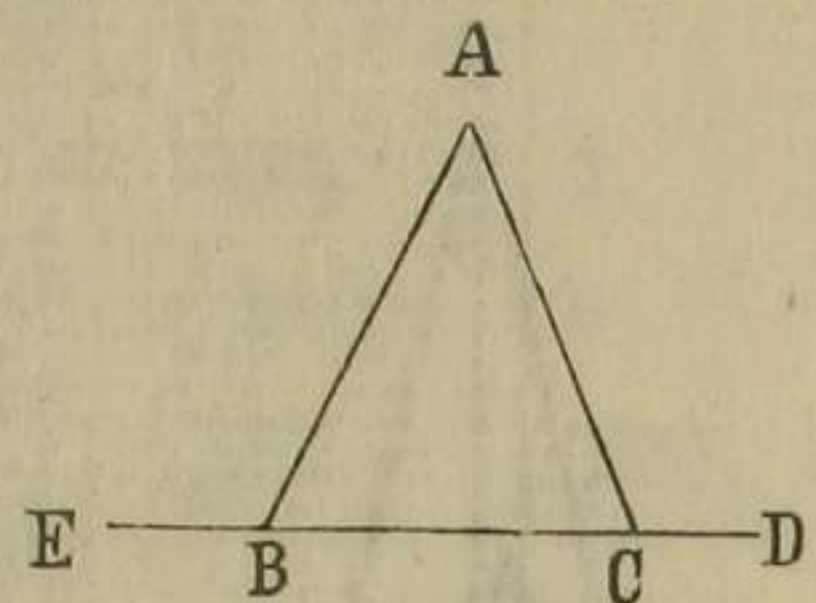
三分為し
得たり

三十三

A を直角とし AB AC を等しく隨意不取り B
 C を結合し BC の長さ不等しく D まる AB を引長し
 而して D C を結合せしめ ADC あり直角三角を画し
 得べし 是れ即ち求むる所の三角あり

(證) (1) の如く定め (1.5) 不因て (3) 又 (4) の如く定めたる
 故不 (1.5) 不因て (5) あり (6) 及び (1.32) 不因て (7) あり故不

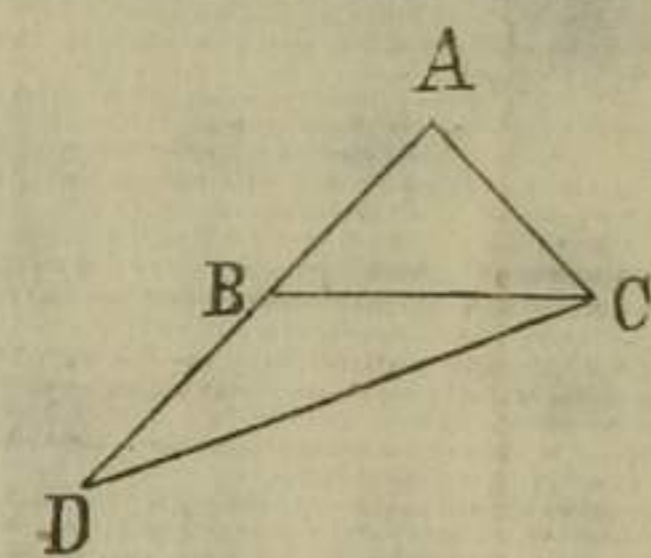
二倍小等し依て二等邊三角の底線云
 三十四 第一 $\angle BAC$ を等邊三角 $\triangle BDC$ を二等邊三角 $\triangle ABC$ 命
 一 共 BC の一底線上 D 在て二等邊三角の頂点 D
 等邊三角中 D 在る者と一此頂点 D より等邊三角
 の頂角及ひ底角点 A, B, C の距離等しき時 $\triangle ABC$ 此底



$$\begin{aligned} \angle ADC &= \angle ACB & (1) \\ \angle ABE &= \angle ACD & (2) \\ \angle ACD &= \angle BAC - \angle ABC & (3) \\ \angle BAC &= \frac{1}{2}(2\angle R + \angle BAC) \\ &= \angle R - \frac{1}{2}\angle BAC & (4) \\ \angle ACD &= \angle R - \frac{1}{2}\angle BAC + \angle ABC & (5) \\ 2\angle ACD &= 2\angle R + \angle ABC & (6) \end{aligned}$$

て(5)を得二
 倍して(6)を
 り然る $\triangle ABC$
 角 $\angle ABE$ 角 $\angle ACD$
 等しき故に
 此和 $\angle ACD$ の

倍小等し得たり
 三十三 $\triangle ABC$ を AB, AC 二邊相等しき三角 $\triangle ABC$ 命し底線 BC
 を引延せ時 $\triangle ABC$ の外角 $\angle ACD$ を為す $\angle ACD$ 角 $\angle ABC$ 其 $\angle ABC$ あり
 此二倍即ち二個の外角の和 $\angle ACD$ 角 $\angle ABC$ より $\angle BAC$ の頂
 角 $\angle BAC$ 大ありと
 證 (1.5) $\triangle ABC$ 命し底線 BC を引延せ時 $\triangle ABC$ の外角 $\angle ACD$ を為す $\angle ACD$ 角 $\angle ABC$ 其 $\angle ABC$ あり
 (1.5) $\triangle ABC$ 命し底線 BC を引延せ時 $\triangle ABC$ の外角 $\angle ACD$ を為す $\angle ACD$ 角 $\angle ABC$ 其 $\angle ABC$ あり
 (1.32) $\triangle ABC$ 命し底線 BC を引延せ時 $\triangle ABC$ の外角 $\angle ACD$ を為す $\angle ACD$ 角 $\angle ABC$ 其 $\angle ABC$ あり
 (3) (4) $\triangle ABC$ 命し底線 BC を引延せ時 $\triangle ABC$ の外角 $\angle ACD$ を為す $\angle ACD$ 角 $\angle ABC$ 其 $\angle ABC$ あり
 依



$$\begin{aligned} \angle BAC &= \angle R & (1) \\ AB &= AC & (2) \\ \angle ABC &= \angle ACB & (3) \\ BC &= BD & (4) \\ \angle BDC &= \angle BCD & (5) \\ \angle ACD &= \angle ACB + \angle BCD & (6) \\ \angle ABC &= \angle BDC + \angle BCD \\ &= 2\angle BDC & (7) \\ \angle ACD &= 2\angle BDC + \angle BDC \\ &= 3\angle BDC & (8) \end{aligned}$$

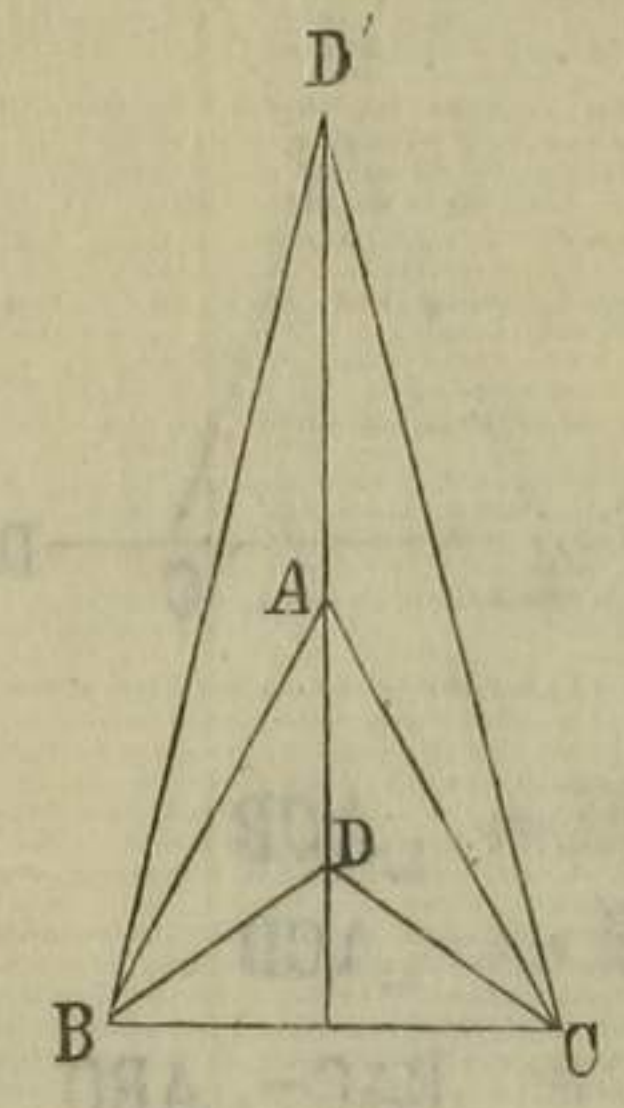
(8) を得依
 て直角三
 角の一鋭
 角を他の
 鋭角の三

幾何学 第一巻 一 問題 三十三

幾何學原典卷一
何事等邊三角の頂角の四分一あるべし
何事等邊三角の頂角の四分一あるべし
何事等邊三角の頂角の四分一あるべし
何事等邊三角の頂角の四分一あるべし

角の頂角の四分一あるべし

(證) (1) (2) (3) 先知る故に (4) の如し又 (5) ある故に (6) あり (1.32) (7) 是を三倍し (8) あり (4) を變じ (9) 故に (8) (9) を以て (10) あり依て等邊三角の中より二等邊三角を画し底線を共し且つ二等邊三角の頂点より



$$\begin{aligned}
 AB &= AC = BC & (1) \\
 AD &= BD = CD & (2) \\
 \angle ADB &= \angle ADC = \angle BDC & (3) \\
 \angle BDC &= \frac{4}{3} \angle R & (4) \\
 \angle BAC &= \angle ABC = \angle ACB & \\
 &= \frac{2}{3} \angle R & (5) \\
 \angle BAD &= \angle ABD = \frac{1}{3} \angle R & (6) \\
 \angle DBE &= \frac{1}{2} (2 \angle R - \angle ADC) & \\
 &= \frac{1}{2} (2 \angle R - \frac{4}{3} \angle R) & (7) \\
 &= \frac{1}{3} \angle R &
 \end{aligned}$$

$$\begin{aligned}
 3 \angle DBE &= \angle R & (8) \\
 \frac{3}{4} \angle BDC &= \angle R & (9) \\
 \angle DBE &= \frac{1}{4} \angle BDC & (10) \\
 AB &= AD' & (11) \\
 \angle BDA &= \angle D'BA & (12) \\
 2 \angle BDC &= 2 \angle R - \frac{4}{3} \angle R & (13) \\
 \angle BDC &= \angle R - \frac{2}{3} \angle R & \\
 &= \frac{1}{3} \angle R & (14) \\
 \angle DBC &= \frac{2}{3} \angle R + \frac{1}{6} \angle R & \\
 &= \frac{5}{6} \angle R & (15) \\
 \angle DBC &= \frac{5}{2} \angle BDC & (16)
 \end{aligned}$$

等邊三角の頂角及び底角点不等距ある時此底角の頂角

の四分一ある事を證明せり

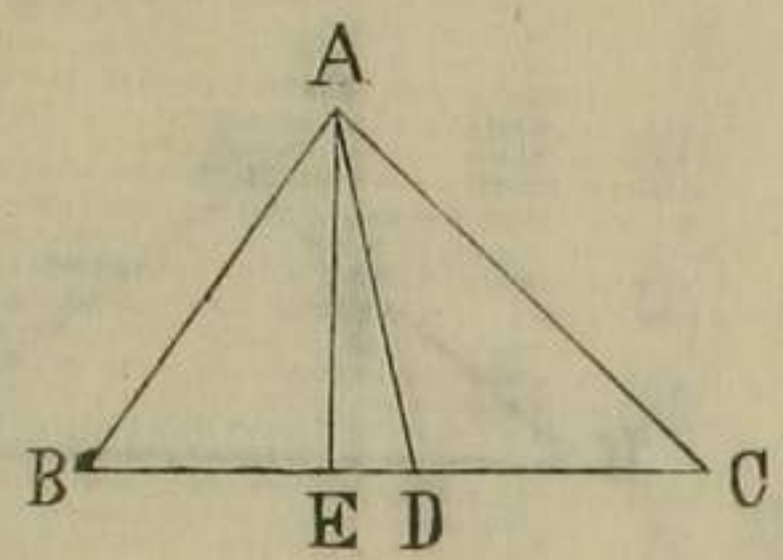
第二 BAC を等邊三角に BDC を二等邊三角に命じ共し BC の一底線上に有て二等邊三角の頂点より等邊三角の外に有る者として等邊三角の頂点 A より二等邊三角の頂角及び底角 D, B, C の距離等しき時此底角の頂角の二倍半あるべし

幾何學原礎卷一 何題解法

(證) (11) 先先知ある故 (12) を得 DBA DCA 角の和也 BDC 角と等
 一き故 (1.32) 小因て (13) を得二除して (14) とあり DBA 角ハ BDC
 角の半即ち直角の六分一及び ABC 角即ち直角の三分
 二を合して (15) とあり (14) を二分の五倍をこれに (15) と等
 しく即ち (16) を得る依て等邊三角外に二等邊三角を
 画し底線を共し且つ等邊三角の頂点より二等邊
 三角の頂角及び底角点に等距ある時ち此底角を頂
 角の二倍半ある事を證明せり

〔三十五〕 ABC を三角に命し A 角を等分する AD 線を画
 し D 点於て底線 BC に會せしむ而して A 点より BC
 に垂線 AE を画する時ち B, C の底角の差ち A より

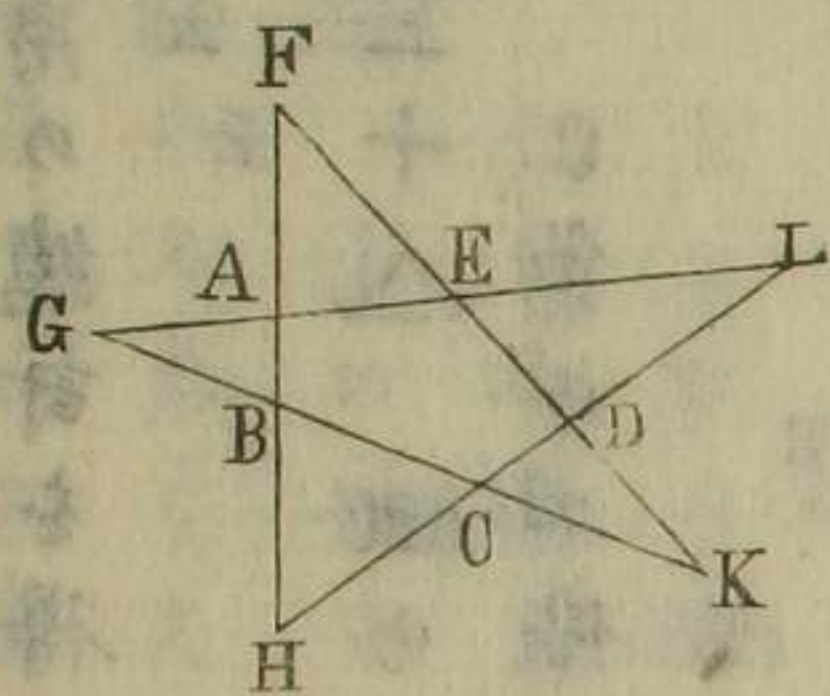
画する所の二線の間角 EAD の二倍と等しき者あり



$$\begin{aligned} \angle BAD &= \angle CAD & (1) \\ \angle BAE &= \angle BAD - \angle EAD & (2) \\ \angle CAE &= \angle CAD + \angle EAD \\ &= \angle BAD + \angle EAD & (3) \\ \angle ABE + \angle BAE &= \angle R & (4) \\ \angle CAE + \angle ACE &= \angle R & (5) \\ \angle ABE + \angle BAE &= \angle CAE + \angle ACE & (6) \\ \angle ABE + \angle BAD - \angle EAD \\ &= \angle BAD + \angle EAD + \angle ACE & (7) \\ \angle ABE - \angle ACE &= 2 \cdot \angle EAD & (8) \end{aligned}$$

(證) BC へ垂直
 ある故に
 ABE, ACE
 三角に
 一
 て (4) (5) ち

り依て (6) ちる相等式を得 (2) (3) を以て此兩邊を變
 れた (7) あり此兩邊より BAD 及び ACE 角を減し EAD 角を加
 ふれた (8) とある依て或る三角に於て頂角云云
 〔三十六〕 ABC を二等邊三角とし底線 BC に D 点を取り



$$\left. \begin{aligned} \angle AEF + \angle EDL + \angle DCK + \angle CBH \\ + \angle BAF = 4R \end{aligned} \right\} (1)$$

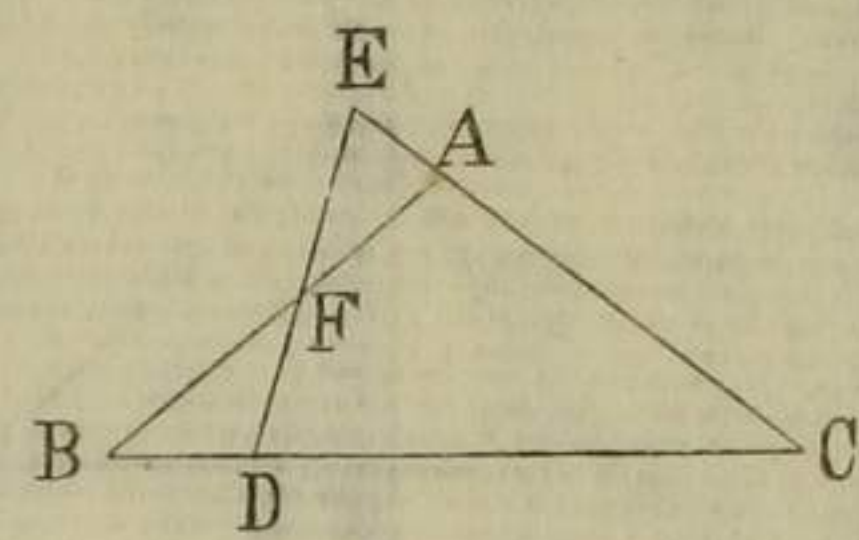
$$\left. \begin{aligned} \angle LED + \angle KDC + \angle HCB + \angle GBA \\ + \angle FAE = 4R \end{aligned} \right\} (2)$$

$$\left. \begin{aligned} 8R + \angle F + \angle G + \angle H + \angle K + \angle L \\ \text{-----} = n \cdot 2R \end{aligned} \right\} (3)$$

(1) [證] (2) あり故に
 是へ F, G, H, K
 L 等の角を加
 了時邊數不
 等しき三角の

底線云云
 (三十七) ABCDE を多邊圖不命し各代る邊を引長きこれを
 F, G, H, K, L 小於て會せべし此 F, G, H, K, L 角の總
 計へ尚八直角を加ると其邊數丈け二倍の直角
 小等しき者あり

て (7) を變し (6) あり (9) を加へて (10) あり依て二等邊三角の
 此を變し (6) あり (9) を加へて (10) あり依て二等邊三角の
 角を減し是



$$\begin{aligned} AB = AC & (1) \\ \angle ABC = \angle ACB & (2) \\ CE = CD & (3) \\ \angle CED = \angle CDE & (4) \\ \angle CED + \angle CDE + \angle ECD = 2R & (5) \\ 2\angle AED = 2R - \angle ECD & (6) \\ \angle EDC = \angle ABC + \angle BFD & (7) \\ \angle BFD = \angle AFE & (8) \\ \angle AED = \angle ABC + \angle AFE & (9) \\ 3\angle AEF = 2R + \angle AFE & (10) \end{aligned}$$

[證] (1) あり (2) あり (3) あり (4) あり (5) あり (6) あり (7) あり (8) あり (9) あり (10) あり

より大あり
 CA を E 小延して CE を CD 小等しきあり ED, AB が F 小
 於て切合時角 AEF の角の三倍也 AFE の角丈け二直角

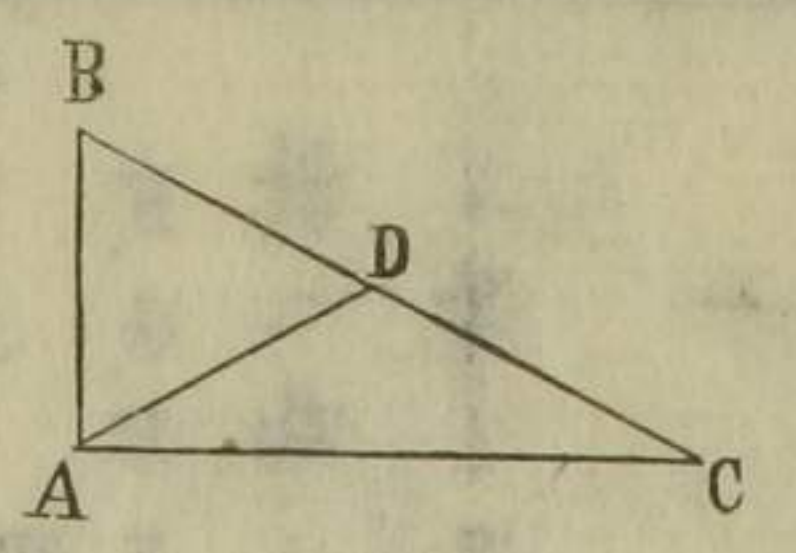
幾何學原典卷之三
 何學原典卷之三
 何學原典卷之三

角の總計を得る即ち(3)の如く依て多邊圖の代る邊

云云

三十八

ABCの三角小於てA角多直角小してB角多
0角の二倍ある時者CBの邊多ABの邊の二倍あり



$$\begin{aligned} \angle BAC &= \angle R & (1) \\ \angle ABC &= 2\angle ACB & (2) \\ &= \frac{2}{3}\angle R \\ BD &= AB & (3) \\ \angle BAD &= \angle ADB & (4) \\ \angle BAD &= \angle ADB & (5) \\ &= \frac{2}{3}\angle R \\ AB &= BD = AD & (6) \\ \angle DAC &= \angle DCA & (7) \\ &= \frac{1}{3}\angle R \\ DC &= AD & (8) \\ AB &= BD = DC & (9) \\ BC &= BD + DC & (10) \\ &= 2AB \end{aligned}$$

(證)の如く画されれを(1.5)小因て(4)あり而して(2)あり故小

(5)あり因てABD三角多各等角あり故小等邊三角小
て(6)の如くA角多直角小してDAC角多此直角より(5)
を減したる者小して又ACDも直角の三分一あり故(7)
あり(1.6)小因て(8)あり故小(9)を得(10)の如く依てABCの
三角小於てA角云云

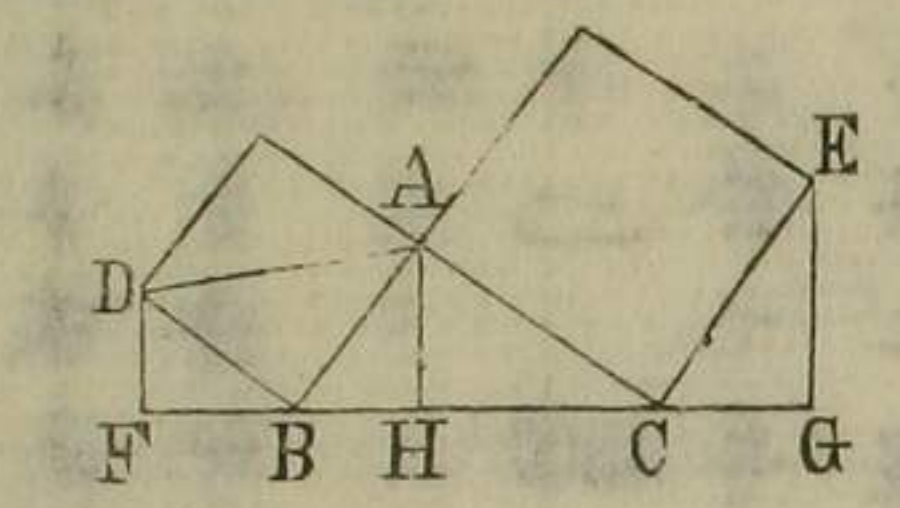
三十九

ABCDを方形と一AE, BF, CG, DHを等しく各方邊の
上小取りEF, FG, GH, HEを連結されれをEFGHの四邊圖を画

せり此圖多尚又方形を成まづ

(證) (1)の如く定めたる故各方邊より各定線を減せ
れを(2)あり又(3)あり故小(1.4)小因て(4)あり故小(5)(6)
を得る同方法小因て(7)あり故(8)を得る依て(9)の如

て (證)
 (2) A 点より BC へ垂線 AH を画し、
 (1) 如き故に AH を得又 AD を結合す (1.13) 故に



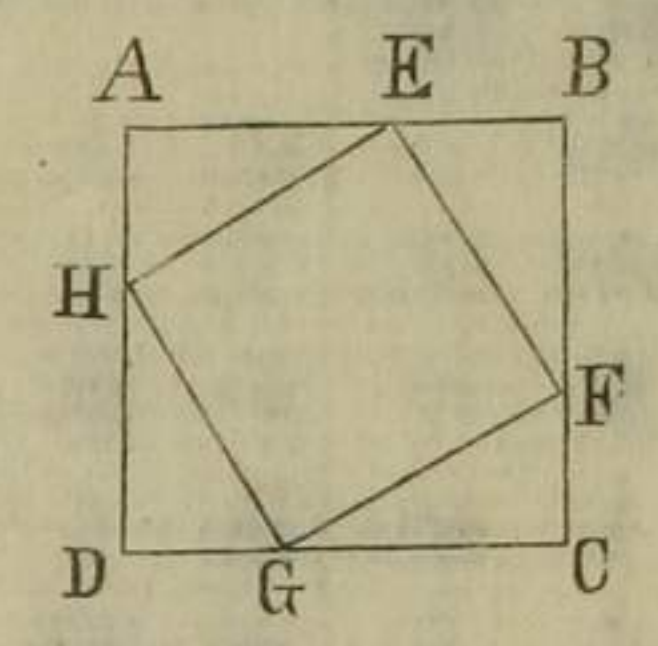
$$\begin{aligned} \angle ABD &= \angle R & (1) \\ \triangle DBF + \triangle ABD + \triangle ABH &= 2\angle R & (2) \\ \angle DBF + \angle ABH &= \angle R & (3) \\ \angle ABH + \angle BAH &= \angle R & (4) \\ \angle DBF &= \angle BAH & (5) \\ BD &= AB & (6) \\ \triangle DBF &= \triangle ABH & (7) \\ DF &= BH & (8) \\ EG &= HC & (9) \\ BH - HC &= BC & (10) \\ BC &= DF + EG & (11) \\ \triangle AHC &= \triangle ECG & (12) \\ \triangle ABC &= \triangle ABH + \triangle AHC \\ &= \triangle DBF + \triangle ECG & (13) \end{aligned}$$

弦 BC を引延し、
 の和不等しく、
 ABC の三角多
 きの者あり

幾何学原典 卷之九 二十九

四十 ABC の直角三角の二邊上の方形を AD, AE と命し

直角あり故に方形 EFGH の四邊各邊同等し、
 (12) を得るあり故に、
 (10) を以て、
 (1.13) 又變じて、
 (13) (11) あり、
 (6) を以て、
 (14) を變じて



$$\begin{aligned} AE &= BF = CG = DH & (1) \\ AH &= DG = CF = BE & (2) \\ \angle EAH &= \angle HDG = \angle EBF \\ &= \angle FCG = \angle R & (3) \\ \triangle AEH &= \triangle CHD & (4) \\ EH &= GH & (5) \\ \angle AHE &= \angle BEF & (6) \\ \triangle AEH &= \triangle BEF & (7) \\ EH &= EF & (8) \\ EH &= HG = GF = EF & (9) \\ \angle AEH + \angle AHE &= \angle R & (10) \\ \angle AEH + \angle HEF + \angle BEF &= 2\angle R & (11) \\ \angle AEH + \angle HEF + \angle AHE &= 2\angle R & (12) \\ \angle HEF &= \angle R & (13) \\ \angle HEF &= \angle EHG = \angle GFE & (14) \end{aligned}$$

幾何学原典 卷之九 二十九

幾何學原典卷一
 何學原典卷一
 例題解式
 是角

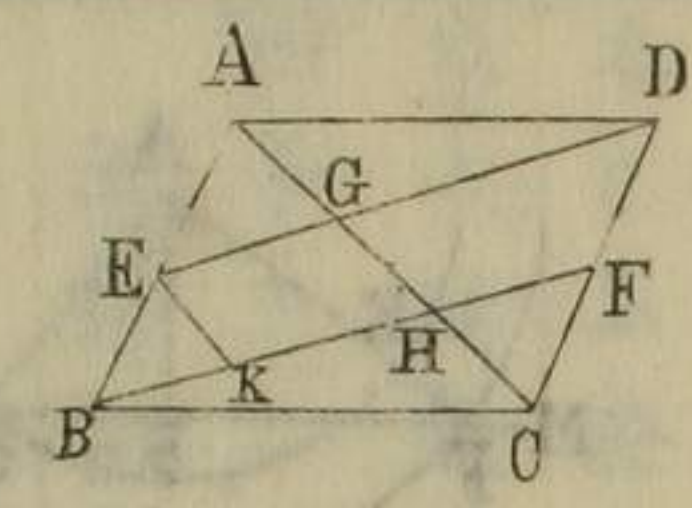
(1.32) 不 因て (4) あり (3) (4) 不 因て (5) を得る 又 (6) あり 故 不
 (1.26) 不 因て (7) あり 故 不 (8) を得 同方法 不 依て (9) を得る
 (10) あり 故 不 (8) (9) 不 因て (11) を得 (7) を求むる 方法 不 因
 て (12) を得 即ち (13) の如く 依て ABC の 直角 三角の 二邊 上
 云

四十一

ABCD を 平行 邊形 不 命し 相對 する AB, CD を E, F
 不 於て 等 分し 是 不 對 する 角 D, B 不 E, F を 結 合 せ
 る 此 二 線 不 AC の 斜 線 を 三 等 分 せ べし

證

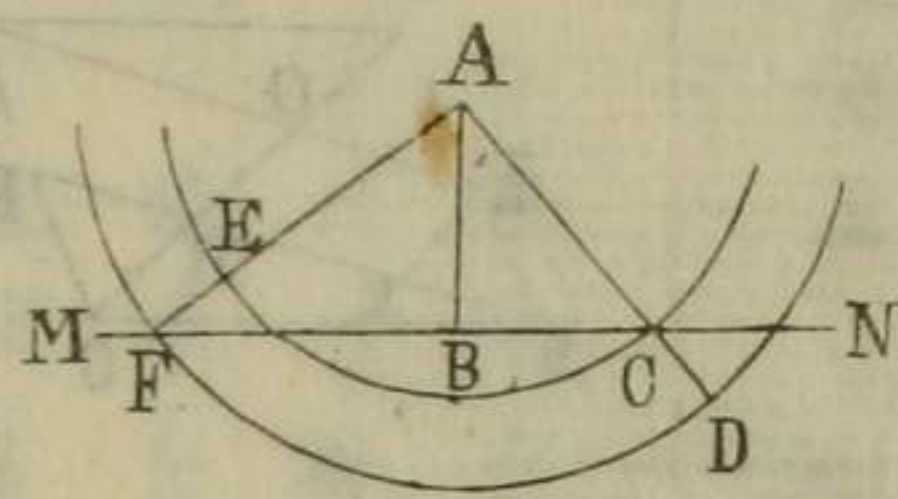
BE, DF 不 相 等し 如何と あり 而して ED, BF 不 平 行 邊 形 の 相對 邊
 AB, CD の 半 あり 而して ED, BF 不 平 行 邊 形 の 相對 邊
 (1.33) 故



- AE = BE (1)
- DF = CF (2)
- ∠BKE = ∠GEK (3)
- ∠GEK = ∠AGE (4)
- ∠BKE = ∠AGE (5)
- ∠EBK = ∠AEG (6)
- △BEK = △AEG (7)
- EK = AG (8)
- EK = GH (9)
- EK = CH (10)
- AG = GH = CH (11)

不 邊 形 EKHG あり (1)
 (2) と 定 め た
 (3) 故 不 因
 (4) あり
 (5) を 得
 故 不 (5) を 得
 EKHG 不 平 行 邊

又 (6) あり (1.26) 不 因て (7) を得 即ち (8) あり 又
 形 あり 故 (9) あり 同方法 不 因て (10) を得る 依て (11) あり
 故 不 平 行 邊 形 の 相對 する 邊 云
 四十二 MN あり 隨 意 の 直 線 上 不 B を 認 め 此 点 より
 垂 直 不 定 垂 線 不 等し き AB を 画し 而して MN 上 底 の



$$AD = AE \quad (1)$$

$$AD - AC = CD \quad (2)$$

$$AE - AC = CD \quad (3)$$

又底の分線を他の一個BFと定むる時、FEを二邊の

得たり
 小題意の如き三角ACFを画き
 してBCを底の定方線ある故
 と定め而してABを定垂線不
 て(3)あり故に二邊の差をCD
 (證) (1)の如き故に(2)を變へ

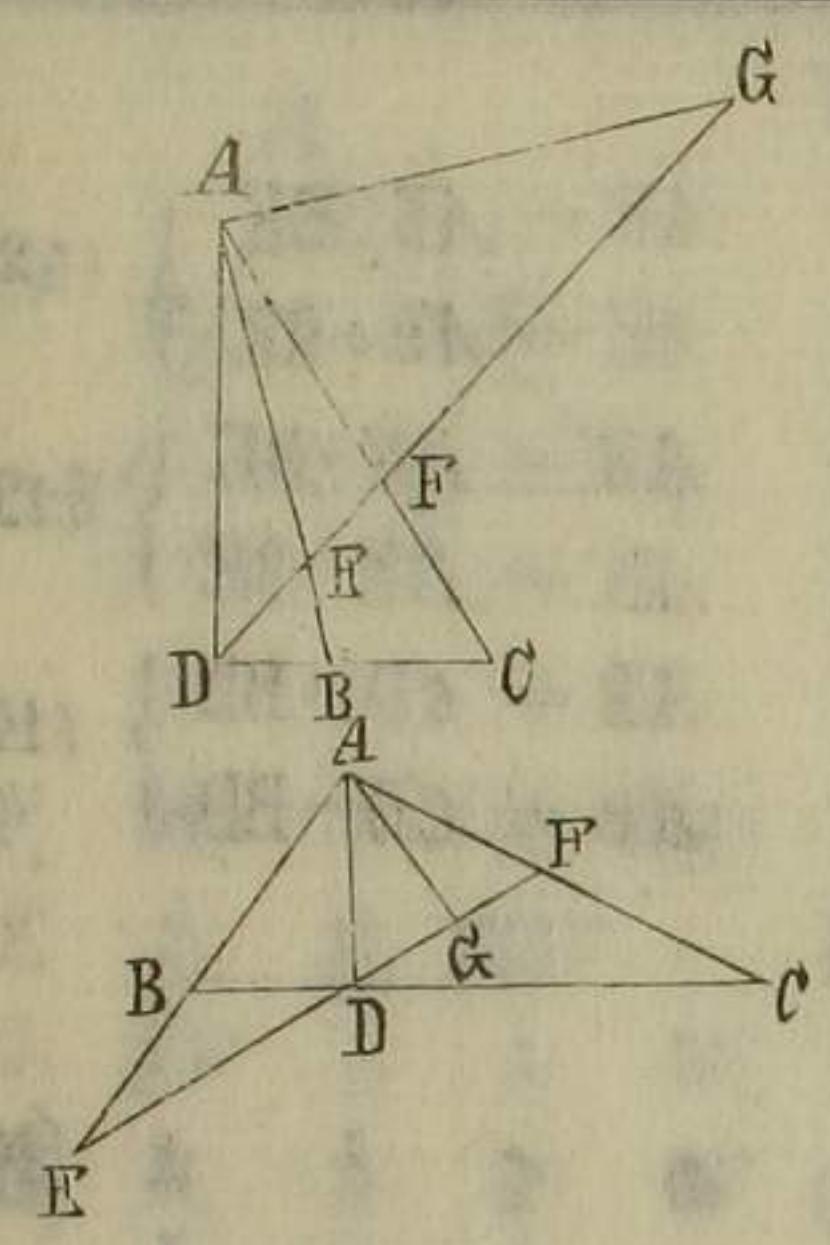
分線不等しきBCを取りA、Cを結合し是を二邊の
 差不等しき長さふDまで引長きADを半径として
 圖を画されをMNふBの左方F不於て交るべしA、
 Fを結合せ然らばACFを求むる所の三角あり

差不等しき長さに取りAEを半径とあり圓を画され
 をし不於てMN不交るべし即ちACFを求むる所の三角
 あり此證明者前の方法と同じ

四十三 ADを以てABCの三角の底線BCに垂線ふ画き

B角をC角の二倍とありB角が直角より小或ち
 大不随てABを引延し或ちAB不於てBEをBDに等し
 く取り而してEDFの直線を画き若B角が直角より
 大ある時、EDFの直線がDEFに變るべしACをFに於
 て切る然る時、FA、FC、FDが互に等しくABCの三角が
 AEFの三角と等角ある者あり

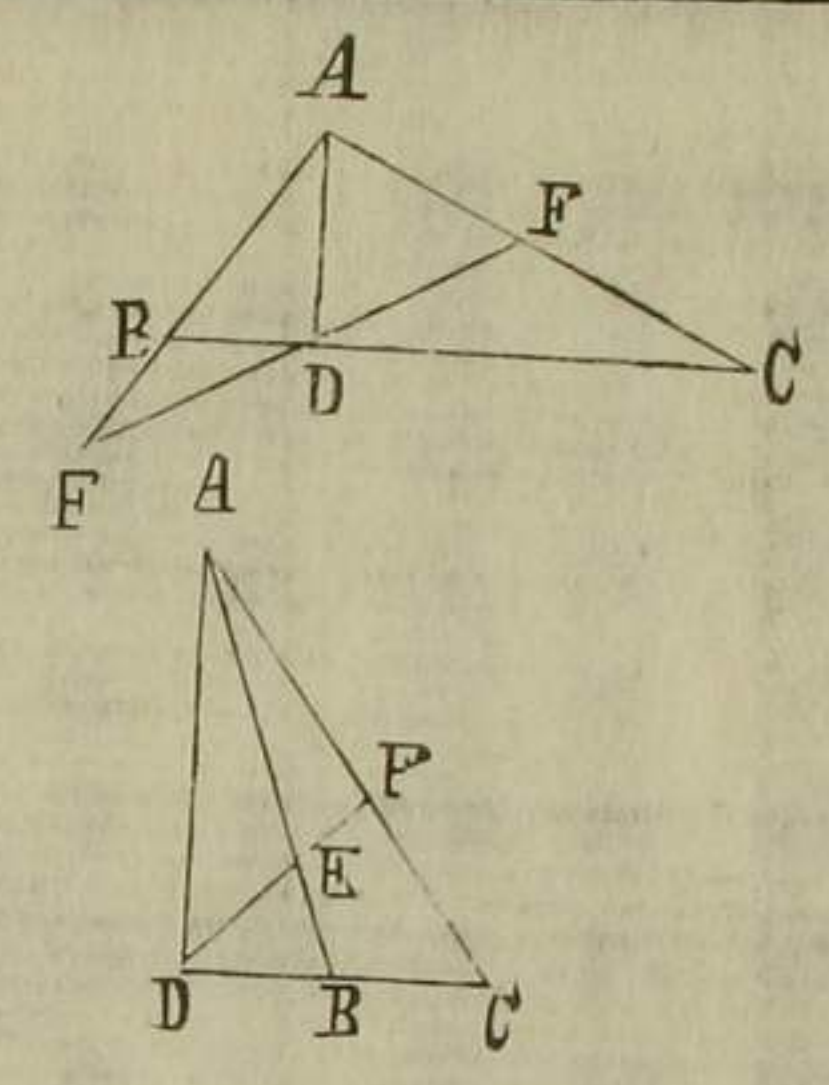
(證) (1) (2) 先知りて (3) を得 (1.15) 不因て (4) あり (1.32) 不



- $\angle ADG + \angle FDC = \angle R$ (1)
- $\angle AGE + \angle AEG = \angle R$ (2)
- $\angle AEG = \angle FDC$ (3)
- $\angle AGE + \angle FDC = \angle R$ (4)
- $\angle ADG + \angle FDC = \angle AGE + \angle FDC$ (5)
- $\angle ADG = \angle AGE$ (6)
- $\angle ADG = \angle AGD$ (7)
- $AG = AD$ (8)
- $\angle AEG = \angle ACD$ (9)
- $\triangle ADC = \triangle AEG$ (10)
- $CD = AE$ (11)

依て (15) あり又 (16) (17) (18) あり故に $\triangle ABC$ の三角を互に等角ある者あり
 四十四 前第四十三の題に於て B 角が直角より大
 或る小に随て小ある邊 AB を底の分線の和或る差
 小等き事を詳解せむ

- $\angle ADF = \angle DAF$ (13)
- $AF = FD$ (14)
- $AF = FC = FD$ (15)
- $\angle ACB = \angle FDC$ (16)
- $= \angle BDE = \angle AEF$ (16)
- $\angle BAC = \angle EAF$ (17)
- $\angle ABC = \angle AEF$ (18)



(13) (10) り り 因て
 と (11) (1.6) (1) 得る
 あり (1.6) (1) 得る
 (1.6) 故に (9) (7) 因て
 因て (12) り 改し 因て
 (14) (8) (1.32) 得る
 得る 因て (8) (6) 得る

- $\angle ABC = 2\angle ACB$ (1)
- $BE = BD$ (2)
- $\angle BDE = \angle BED$ (3)
- $\angle BDE = \angle FDC$ (4)
- $\angle ABC = \angle BDE + \angle BDE$ (5)
- $\angle ABC = 2\angle BDE = 2\angle FDC$ (6)
- $\angle ACB = \angle FDC$ (7)
- $\angle FCD = \angle FDC$ (8)
- $FC = FD$ (9)
- $\angle ADF + \angle FDC = \angle R$ (10)
- $\angle DAF + \angle FCD = \angle R$ (11)
- $\angle ADF + \angle FDC = \angle DAF + \angle FCD$ (12)

幾何學原義卷一 例題解法
 四十四 前第四十三の題に於て B 角が直角より大
 或る小に随て小ある邊 AB を底の分線の和或る差
 小等き事を詳解せむ

幾何學原礎卷一 例題解式

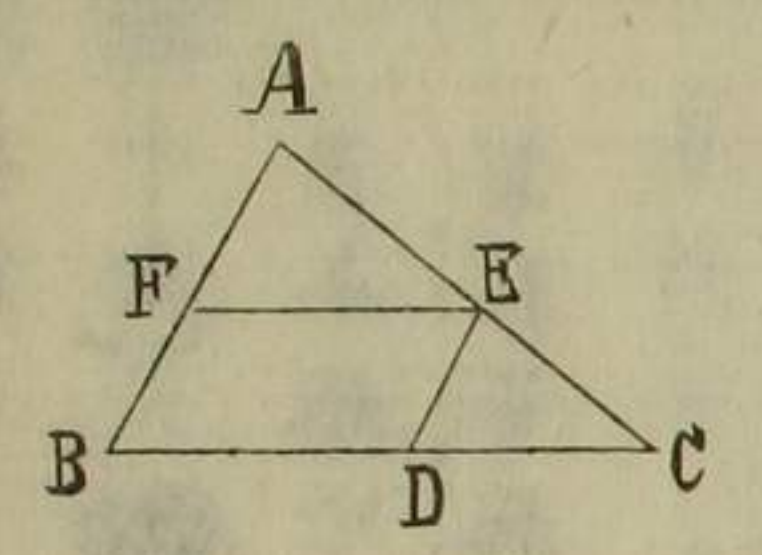
$$\left. \begin{aligned} AE &= AB - BE \\ AE &= AB + BE \end{aligned} \right\} (12)$$

$$\left. \begin{aligned} AB &= AE + BE \\ AB &= AE - BE \end{aligned} \right\} (13)$$

$$\left. \begin{aligned} AB &= CD + BD \\ AB &= CD - BD \end{aligned} \right\} (14)$$

而して(9)の如き故にADC, AECの直三角を一鋭角及び一
 邊相等しき故に(10)あり因て(11)を得る然るにB角を
 直角より大或は小に隨て(12)を得(13)の如し依てAB
 邊を底の分線の和或は差に等しき事を證明せり
 四十五 ABCを三角に命し定直線をして此三角の二

(證) EF引長部或はEFの上をA
 よりABに垂直あるAGを畫すべ
 しADもBCに垂直ある故に(1)の如
 くしてAGEも直三角ある故に(2)
 の如し(13)に依て(3)を得(2)を變



邊AB, ACに會せしめ而して他の一邊BCに平行に画
 く事を求む
 定直線に等しきBDをBC上に取り而してDよりABに
 平行にDEを画しACにEに於て會せしむEよりDEに
 平行にEFを画しABにFに於て會せしむ然らば即ち
 EFも定直線あり

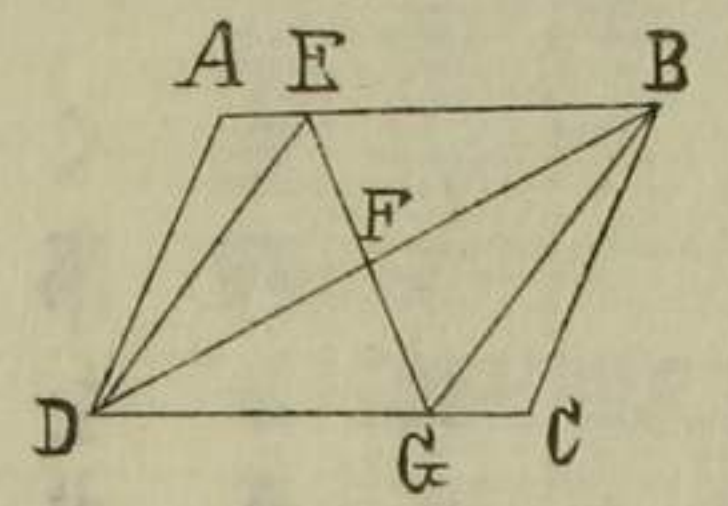
(證) DE, BF及びBD, EF共に平行に画せし
 故にBDEFも平行邊形あり因てBD, FEも相等
 し然るにBDも定直線に等しき故に画せし
 故にEFも定直線に等しきしよてAB, ACに
 F, Eに於て會しBCに平行なを畫すべし

幾何學原簿卷一
例題解式

き得たり

四十六

ABCD を平行邊形に命し BD を斜線とせ是れを F に於て等分する EFG 直線を描し AB, CD の平行邊に E, G に於て會せしむ然る時此平行邊形を等分すべし



- AB = DC (1)
- AD = BC (2)
- DE = FB (3)
- ∠FDG = ∠EBF (4)
- ∠DFC = ∠BFE (5)
- △DFG = △BEF (6)
- FG = EF (7)
- DG = BE (8)
- △DFE = △BFG (9)
- DE = BE (10)
- AB - BE = DC - DG (11)
- AE = GC (12)
- △AED = △CBG (13)
- △AED + △DFE + △DFG } (14)
- = △CBG + △BFG + △BEF
- ADGE = □BCE (15)

證

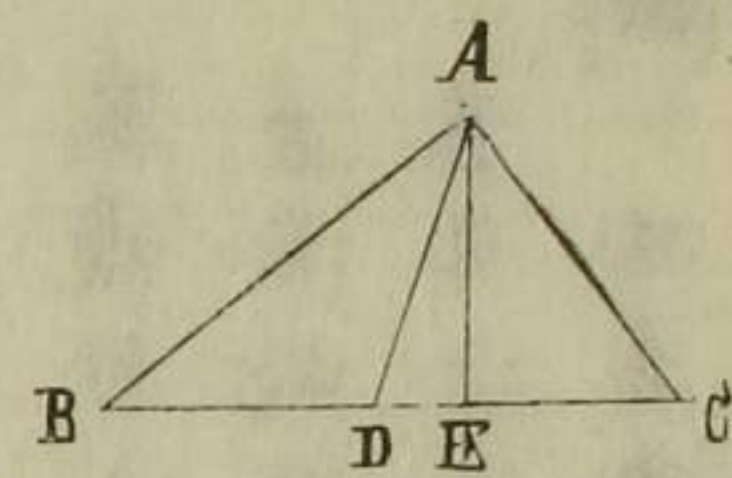
(1) (2) (3) 先知りて (1.29) 不因て (4) 不
 故に (1.26) 不因て (6) 因て (7) (8) あり ED, BG を画すれを (1.4) 不
 因て (9) あり因て (10) を得 (1) より (8) を減し (11) 故に (12) 不
 あり (1.18) 不因て (13) を得 (9) 及び (6) を加へ (14) を得故に (15) 不
 あり依て平行邊形の斜線云云

四十七

ABC を直角三角に命し A を直角とせ A より
 底邊 BC を等分する AD を画し又 BC に垂線 AE を画す
 此を此二直線の間角 DAE を B, C 二角の差に等しき
 あり

證

(1) 先知りあり故に (2) を得 (1.5) 不因て (3) あり (1.32) 不
 因て (4) 又 (5) (6) あり故に (7) を得 (4) を以て是を變し (8) 不

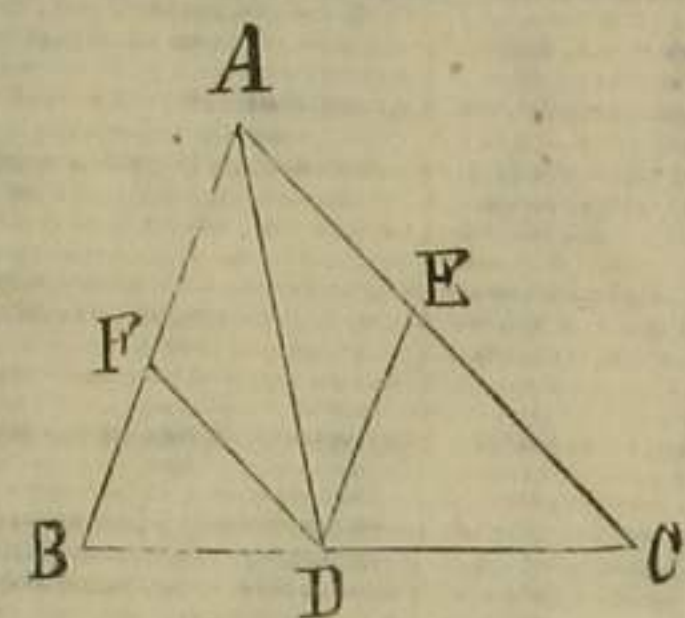


$$\begin{aligned}
 &BD = DC && (1) \\
 &AD = ED = DC && (2) \\
 &\sphericalangle BAD = \sphericalangle ABD && (3) \\
 &\sphericalangle ADE = \sphericalangle BAD + \sphericalangle ABD && (4) \\
 &\quad = 2 \sphericalangle ABC \\
 &\sphericalangle DAE + \sphericalangle ADE = \sphericalangle R && (5) \\
 &\sphericalangle ACB + \sphericalangle ABC = \sphericalangle R && (6) \\
 &\sphericalangle DAE + \sphericalangle ADE = \sphericalangle ACB + \sphericalangle ABC && (7) \\
 &\sphericalangle DAE + \sphericalangle ABC = \sphericalangle ACB && (8) \\
 &\sphericalangle DAE = \sphericalangle ACB - \sphericalangle ABC && (9)
 \end{aligned}$$

あり此兩邊よりABC角を減てこれを(9)とある依て直角三角の直角云云

四十八) ABCを三角ふ命一此三角の底線BC中ふ一点を求む此点よりAB, ACの二邊へ平行する二直線を画き二邊ふ止り等しうらむ
頂角BACを等分するAD線を画しBCふDふ於て會せしむDふ即ち求むる所の点あり此点よりAB, ACふ平行

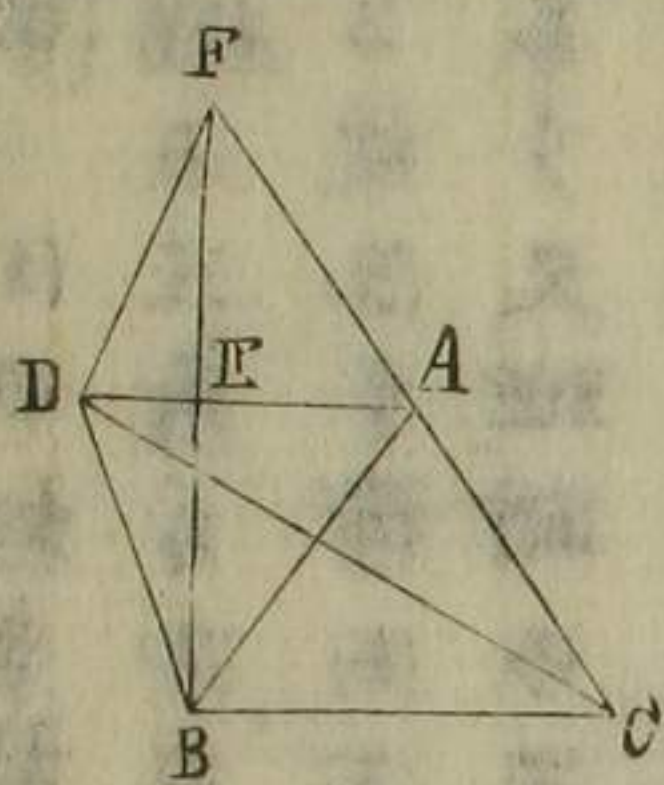
せるDE, DFを画しE, Fふ於てAC, ABふ會せしむれをDE, DFふ相等しきあり



$$\begin{aligned}
 &\sphericalangle BAD = \sphericalangle CAD && (1) \\
 &\sphericalangle BAD = \sphericalangle ADE && (2) \\
 &\sphericalangle CAD = \sphericalangle ADE && (3) \\
 &DE = AE && (4) \\
 &\sphericalangle BAD = \sphericalangle ADF && (5) \\
 &DF = AF && (6) \\
 &DE = DF && (7)
 \end{aligned}$$

(證) (1)の如く定めAB, EDふ平行ふ画したる故(1, 2)因て(2)あり故ふ(3)を得(1, 6)ふ因て

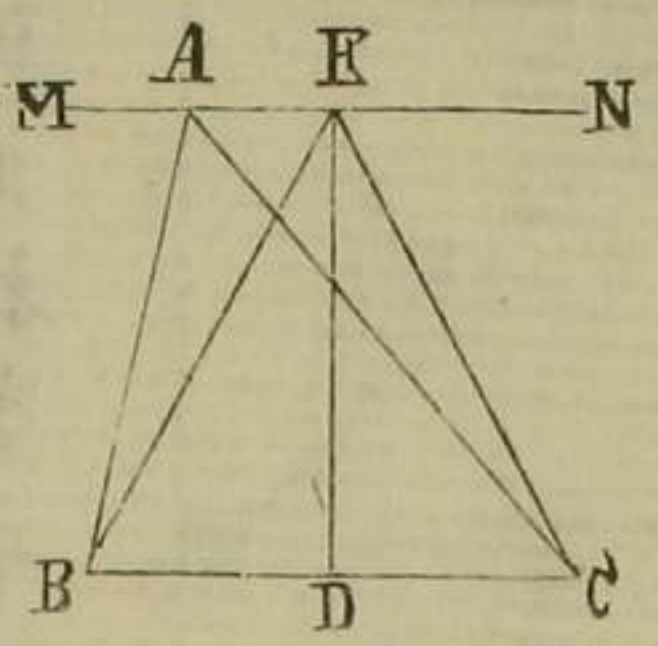
四十九) BCを定直線とし此直線上ふ定三角ふ等し
の底線ふ一点云云
(4)あり同方法ふ依て(5)(6)を得然るふARDEFふ平行邊形ふして相對する二邊相等しき故(7)を得る依て三角



- (1) $\triangle ABC = \triangle DBC$
- (2) $BE = EF$
- (3) $AB = AF$
- (4) $CBF = R$
- (5) $AB = BC$
- (6) $BD = DF$
- (7) $ED + DC > AF + AC$
- (8) $BD + DC > AB + AC$
- (9) $BD + DC + BC > AB + AC + BC$

〔五十〕 $\triangle ABC$ を二等邊三角小命し此周圍 AB, AC, BC の和を
 是小等しき BC の底線をも有する同積の凡ての三角
 假令を DBC の DB, DC, BC の和より小あり
 底線 BC の一端 B より垂線 BE を植れ A, D 二頂点を
 通する線 AD 小 E 小於て交るべし是を F まで引長し
 て EF を BE と等しくし AF, DF を結合せ

幾何學原典卷一 問題解
 三十一



- (1) $\triangle ABC = \triangle EBC$
- (2) $BD = DC$
- (3) $DE = DE$
- (4) $\triangle BDE = \triangle CDE$
 $= R$
- (5) $\triangle BDE = \triangle CDE$
- (6) $BE = CE$

小定三角小等しき二等邊三角を画し得たり

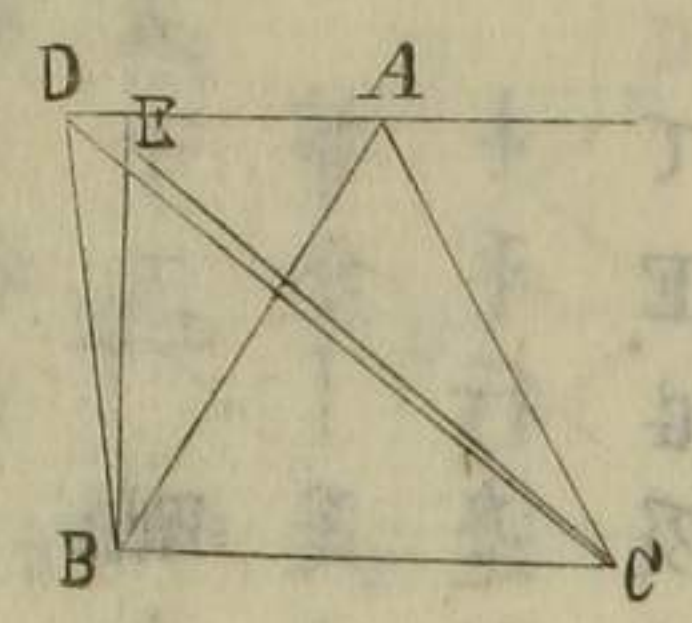
依て定直線の上
 を得故ふ(6)あり
 故ふ(1,4)小因て(5)
 を得(2)(3)(4)あり
 (證) (1,3,7) 小因て(1)

き ABC 三角を画し是れと等しき二等邊三角を画く
 を求む
 BC 小平行 A を通して MN の直線を画し BC の中央 D
 より垂線を植れ E 小於て MN 小交るべし BE, CE を結
 合せれ BEC 小求むる所の二等邊三角あり

幾何學原典卷一 問題解
 三十二

幾何學原論卷一
 初題解
 三十七

〔證〕 (1) の如き故不 (1.39) 不 因て BC, AD 亦平行するあり
 AEB の三角を (2) の如くして E の二隣角を共不直角を
 る故 (3) を得 (4) (5) の如き故不 CF 亦一直線ある事明々
 あり又 BDE, DEF の三角不於ても (6) の如く (1.20) 不 因て (7) を
 得 (3) (6) を以て是を變へ (8) を得兩邊へ BC を加へ (9) 亦
 り依て二等邊三角の周圍云
 〔五十二〕 ABC, BEC 亦同一 BC を底と一他二邊の和 AB, AC 及
 ひ EB, EC の和の等しき二個の三角ありて ABC 亦二等
 邊ある者とせ而して BEC より大ある者あり
 〔證〕 ABC の三角と積相等しき BDC の如き三角を (1.39) 不 因
 て BC, DA の平行二線の間不在る者あり因て (1) あり然

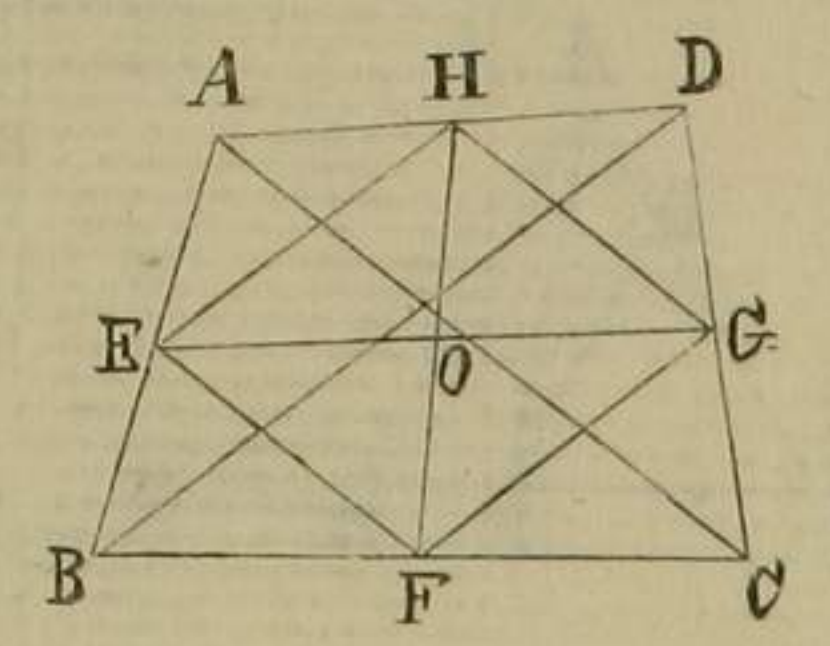


- $\triangle BDC = \triangle ABC$ (1)
- $AB + BC < BD + DC$ (2)
- $AB + BC = BE + EC$ (3)
- $\triangle BDC > \triangle BEC$ (4)
- $\triangle ABC > \triangle BEC$ (5)

る不 (50) 不 因て (2) の
 如く今 (3) の如き故
 不 (4) を得べし如何
 とあれ亦 E の頂点
 亦 AD の下不ある者
 り故不 (5) あり依て

同一底同一周圍云
 〔五十二〕 ABC の三角の AB 線不 D 点を設け ABC の三角不
 等しき ADE の三角を画き其 A 角を等しくせ
 D, C を結合し是と平行する BE を画し E 不於て AC 不
 會せしむ ADE 亦求むる所の三角あり

EO = OG (13)
HO = OF (14)



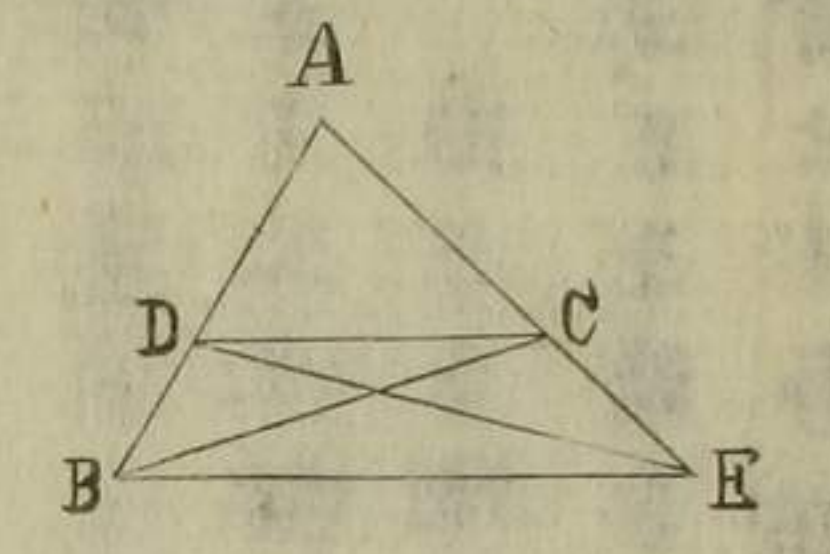
幾何學原典卷一 問題解心 三十八

此相併せてあり此理を推してあり
FC 平行あり然らる即ち及ひを
て同方法に依てFC BDも平行故にEH
BD ACを結合せしめて
(1) (3) あるを以てEH BD
△AEH + △CFG = 1/4 □ABCD (7)
△BEF + △DCH = 1/4 □ABCD (8)
□EFGH = □ABCD - (△AEH + △BEF + △CFG + △DCH) (9)
□EFGH = □ABCD - 1/2 □ABCD (10)
= 1/2 □ABCD

AE = EB (1)
BF = FC (2)
AH = HD (3)
CG = GD (4)
△AEH = 1/4 △ABD (5)
△CFG = 1/4 △CBD (6)
△AEH + △CFG = 1/4 □ABCD (7)
△BEF + △DCH = 1/4 □ABCD (8)
□EFGH = □ABCD - (△AEH + △BEF + △CFG + △DCH) (9)
□EFGH = □ABCD - 1/2 □ABCD (10)
= 1/2 □ABCD

EH = GF (11)
EF = AG (12)

五十三 画き得たり
ABCD を四邊圖に命し E, F, G, H 小於て各邊を
等分し是を結合せる時其積を原圖の積の半あり而して
E, G 及び F, H を結合せしめて此二線を互に等分
せるあり



△BDC = △CDE (1)
△BDC + △ABC = △CDE + △ABC (2)
△ABC = △ADE (3)

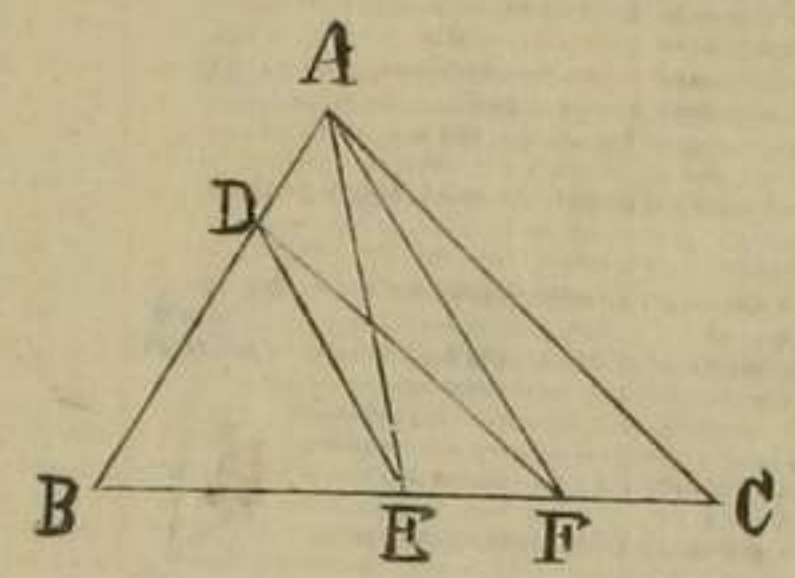
(證) 兩邊へ ACD 三角を加へて
(2) 是を括り(3)を得る依
て A 角を共用する ABC
三角小等しき ADE 三角を

幾何學原典卷一 問題解心 三十八

幾何學原序
何題解式

圖に依て(9)ある故に(10)を得る而してEFCHを平行邊形
にして(11)(12)ある故に其斜邊を(13)(14)の如く依て或る
四邊圖の邊を等分云

〔五十四〕ABCを三角に命しABの一邊上Dを定点とし
此点より三角を等分せる事を求む



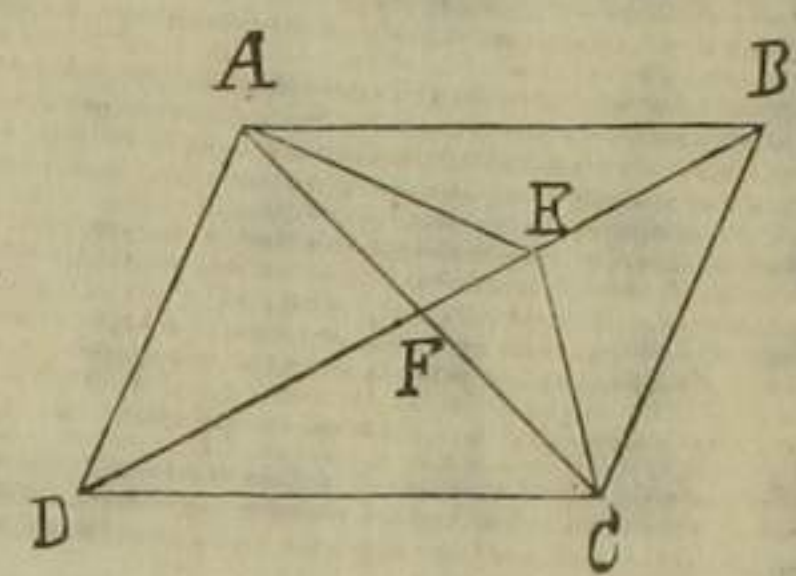
$$\begin{aligned} \triangle ADE &= \triangle EDF & (1) \\ \triangle BDE + \triangle ADE &= \triangle BDE + \triangle EDF & (2) \\ \triangle ABE &= \triangle BDF & (3) \\ \triangle ABE &= \triangle ABC & (4) \\ \triangle ABE &= \frac{1}{2} \triangle ABC & (5) \\ \triangle BDF &= \frac{1}{2} \triangle ABC & (6) \end{aligned}$$

D点よりA角に近接
せる者とてBCの中
央Eを取りAE、DEを
画しAよりDEに平
行せるAFを画しBC
にFに於て會せし

むD、Fを結合せDFをABCの三角を二等分せる所の線
あり
〔證〕(1.37) 不因而(1)を得(2)ある故に(3)あり(1.38) 不因而(4)
を得故に(5)あり(3)不因而(6)あり依てDF線がABC三角
を二等分せるあり

〔五十五〕ABCDを平行邊形に命しBD徑中の一点Eより
A、Cに迄二直線を画く時各徑の兩側に於て二雙
の等しき三角を分割し得べし

〔證〕(1) 先知る故に(1.38) 不因而(2)(3)あり相減して
(4)を得る依て(5)あり(1.34) 不因而(6)ある故に(5)を減せ
る時各(7)を得る依て平行邊形の徑云

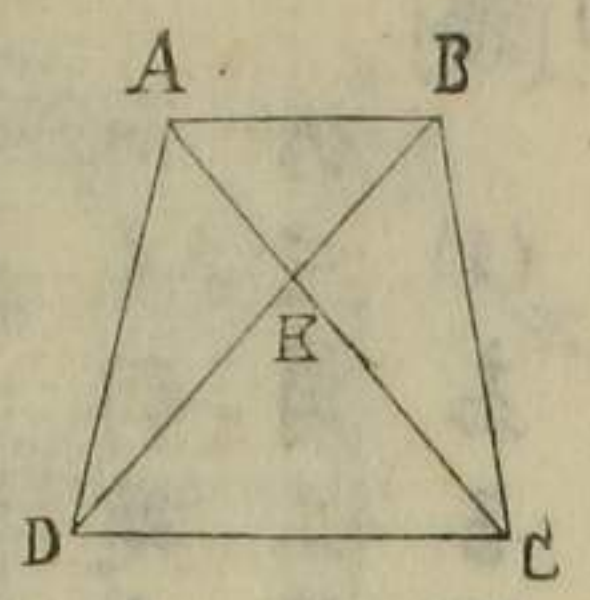


- AF = FC (1)
- $\triangle ABF = \triangle CBF$ (2)
- $\triangle AEF = \triangle CEF$ (3)
- $\triangle ABF - \triangle AEF = \triangle CBF - \triangle CEF$ (4)
- $\triangle ABE = \triangle CDE$ (5)
- $\triangle ADB = \triangle BCD$ (6)
- $\triangle AFD = \triangle CED$ (7)

五十六

ABCD の野ふ十字に AC, BD の繩を引き AC, BD 角

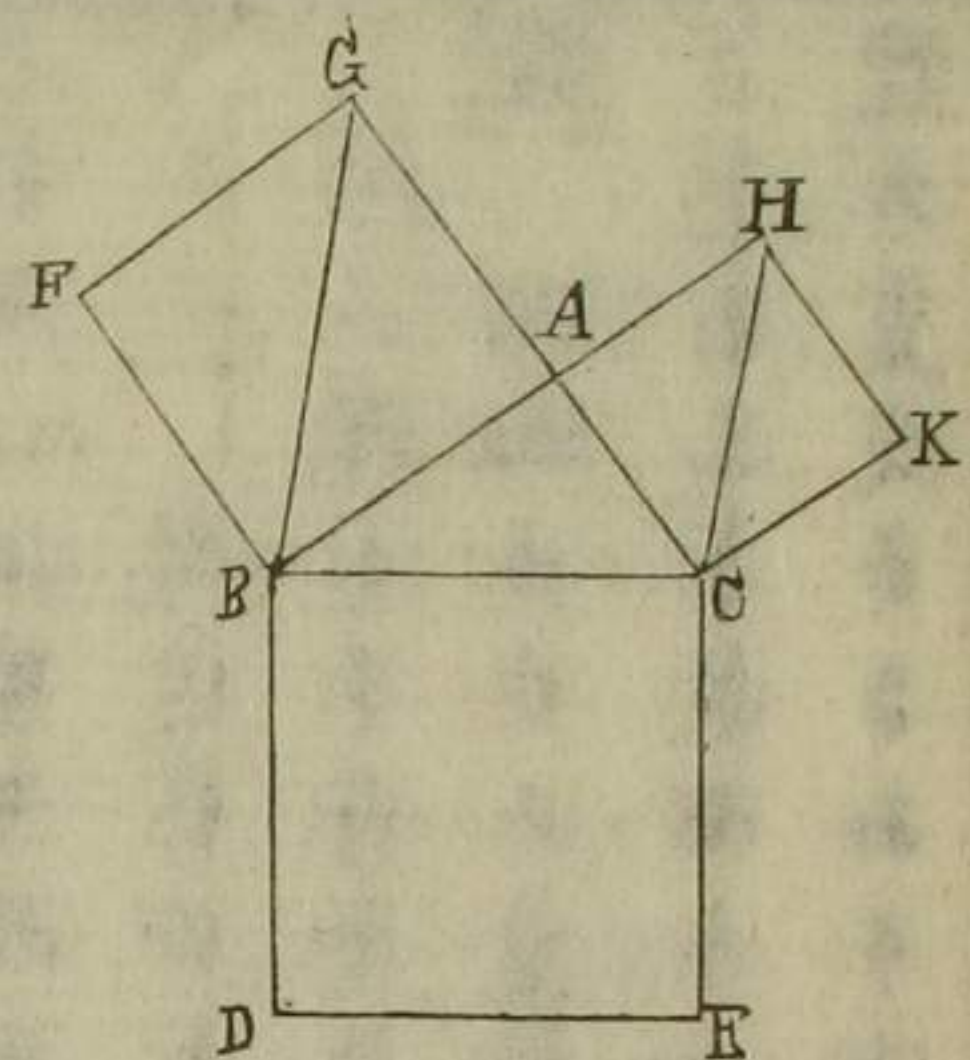
と等しき角をありて AC, AD と BC, BD と等しき角
 をありて AB, CD と平行あるを詳解せべし
 (證) (1) あり (2) あり (3) あり (4) あり (5) あり (6) あり (7) あり (8) あり (9) あり (10) あり
 (1.32) を得此兩邊へ EDC 三角を加へ (9) 是を括りて (10) あり



- $\angle ACD = \angle BDC$ (1)
- $\angle CAD = \angle CBD$ (2)
- $\angle ECD = \angle EDC$ (3)
- ED = EC (4)
- $\angle AEB = \angle EAD - \angle EDA = \angle EBC - \angle BCE$ (5)
- $\angle EAD = \angle EBC$ (6)
- $\angle EDA = \angle ECB$ (7)
- $\triangle AED = \triangle BEC$ (8)
- $\triangle AED - \triangle ECD = \triangle BEC - \triangle ECD$ (9)
- $\triangle ACD = \triangle BCD$ (10)

り故に (1.39) 不困て AB, DC の平行ある事を證明せり
 五十七 考定第四十七の圖に於て BG, CH を結ぶ時を

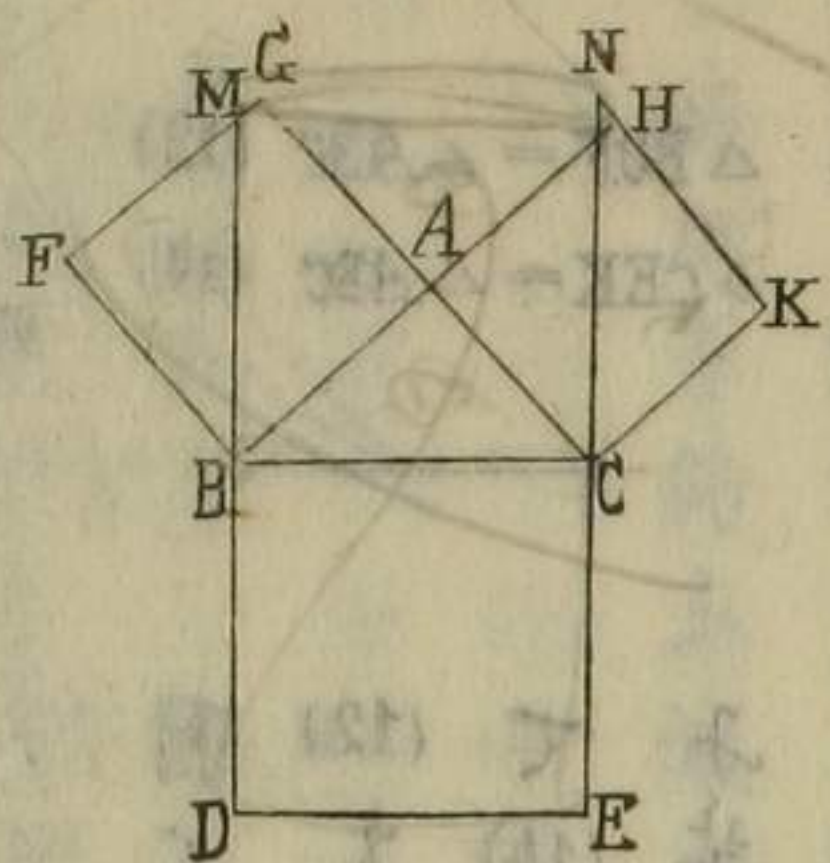
此二線が平行する事明あり
 (證) BAC, BAG 共し直角ある故に CG 一直線にして又 CAH
 も直角ある故に BH の一直線ある事明あり故に此二
 線が直交するあり (1) (2) の如し故に (3) を得る而して



$$\begin{aligned} \angle ABG &= \frac{1}{2} \angle R & (1) \\ \angle AHC &= \frac{1}{2} \angle R & (2) \\ \angle ABG &= \angle AHC & (3) \end{aligned}$$

此二角が代る
角ある故 (1,2)
因てBG, CHの平
行ある事明ら
あり

五十八 同圖に於てDB, ECをFG, KHにM, Nに於て會せ
べく引延き時とBFM, CKNの三角も等角あり而してABC
の三角も等し
證 (1) ある故 (2) の如く即ち (3) あり (4) (5) ある故
不困て (6) を得又同方法に因て (7) を得る故に
BFM, CKN



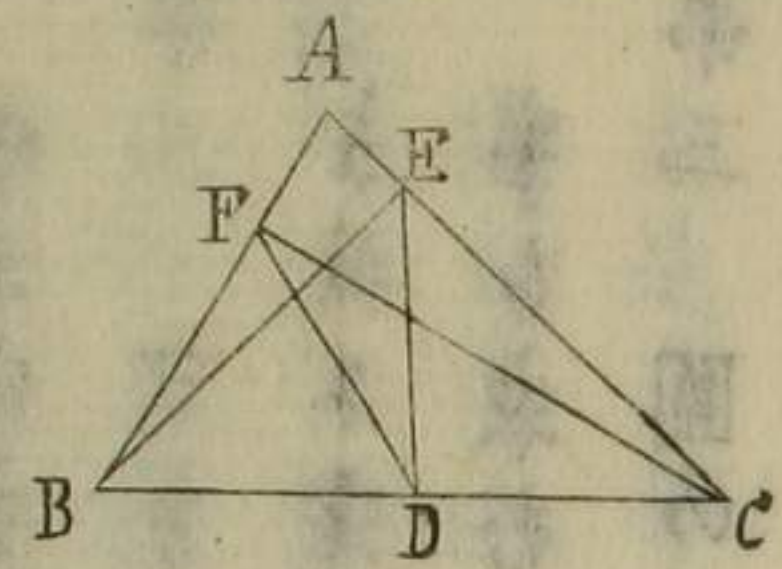
$$\begin{aligned} \angle MBC &= \angle ABF = \angle R & (1) \\ \angle MBC - \angle MBA &= \angle ABF - \angle MBA & (2) \\ \angle ABC &= \angle FBM & (3) \\ \angle BAC &= \angle CFM = \angle R & (4) \\ AB &= BF & (5) \\ \triangle ABC &= \triangle BFM & (6) \\ \triangle ABC &= \triangle CKN & (7) \end{aligned}$$

の三角
も等角
ありて
ABCの三
角も等
きあり

五十九 同圖に於てGH, KE, FDを結ぶ時各各三角形を
ありてABCの三角も等し

證 (1) (2) (3) 考先知ある故に (1,4) に因り (4) ありDM, ENを
FB, KCに垂直に画き水を引長部M, Nに於て會せべし
而して (5) ある故に (6) に因り (7) を得 (8) ある故に (1,26) に

を得依て ABC の三角ふ於て A 角云



$$\begin{aligned} \angle BEC &= \angle BEC = \angle R & (1) \\ BD &= DC & (2) \\ BD &= DC = DF & (3) \\ BD &= DC = DE & (4) \\ DE &= DF & (5) \end{aligned}$$

(3) 直三角ふして BC を
其弦あり而して是
を二等分する故に
(4) の如く故に
(5)

画き且つ D を以て BC を等分する時 DE を結ぶ線
者 DF を結ぶ線ふ等き者あり

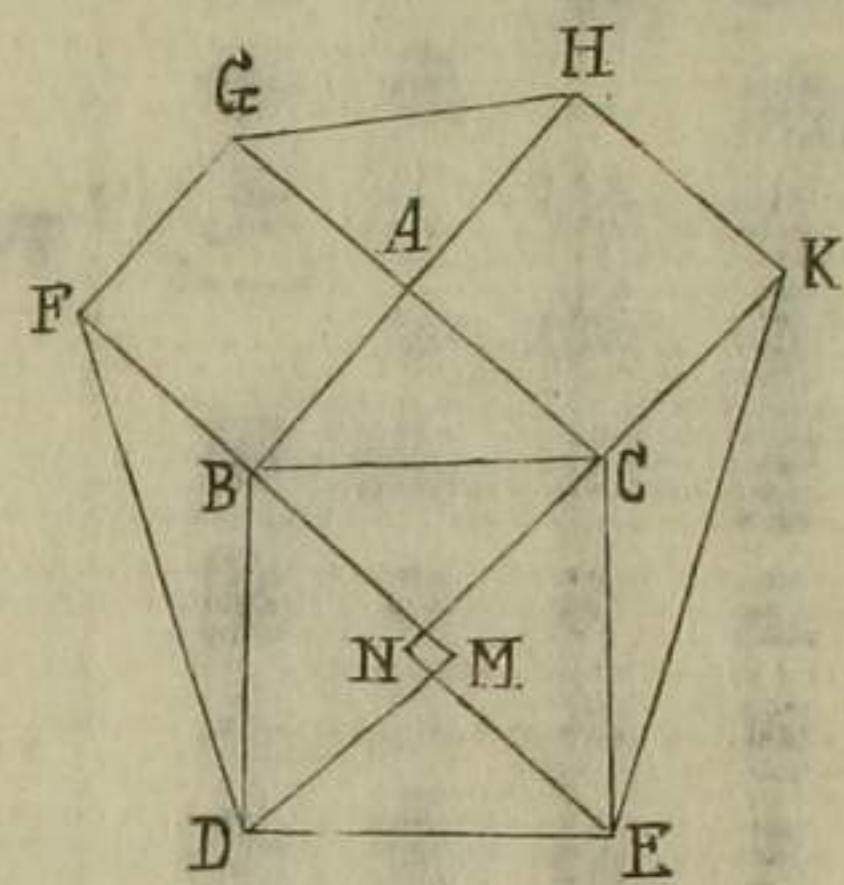
(證) (1) (2) 者先知

六十

$$\begin{aligned} \triangle BDF &= \triangle ABC & (13) \\ \triangle CEK &= \triangle ABC & (14) \end{aligned}$$

ABC の三角ふ於て A 点を通る線へ垂線 BE, CF を

小等しき事を證明せり
て (12) 因て
(14) あり (9)
を得依て (9) (10) あり
AGH 因て (11) を得る
BDF, CEK を得る同方法 (1, 40) 不
各三角者 ABC 三角 因て



$$\begin{aligned} AB &= AG & (1) \\ AC &= AH & (2) \\ \angle BAC &= \angle GAH & (3) \\ \triangle ABC &= \triangle AGH & (4) \\ \angle ABM &= \angle CBD = \angle R & (5) \\ \angle ABM - \angle CBM &= \angle CBD - \angle CBM & (6) \\ \angle ABC &= \angle DBM & (7) \\ \angle BMD &= \angle R & (8) \\ \triangle ABC &= \triangle DBM & (9) \\ AB &= BM & (10) \\ BM &= BF & (11) \\ \triangle BDF &= \triangle DBM & (12) \end{aligned}$$

幾何学原典卷一 四十二
何事原典卷一 四十二
何事原典卷一 四十二
何事原典卷一 四十二

卷一例題補遺

- 第一 定直線中の凡ての点より其兩側ある二定点
 へ迄引く二直線相等しき時此二定点を結ぶ直
 線が定直線に直角に交る事を詳解せよ
- 第二 定直線の一方に於て二定点より二直線を引
 き共不定直線上に會して等しき角を為さしめん
 事を求む
- 第三 圓の中心を定め且つ兩脚器の兩脚の距離に
 因て周に於る相對する兩点を求めん事を欲せ
- 第四 考定第五圖に於て BG 、 CF 、 H に於て切合時
 AH を連ねる直線に因て BAC の角を平分する者あり

- 第五 定角を二等分する直線中の凡ての点より此角
 の二邊より等しき距離あり
- 第六 三角の二邊を引長する時其二個の外角を為
 せば是を等分する直線が引長せし二邊にて成る内
 角を等分せし一線の上にて相交する者あり
- 第七 今書籍一枚の隅に折れ其折目平行し
 て等しき形の三角を顯す其二の折れの一の折の三
 倍あるを解明せよ
- 第八 是を延長せしめ定二直線を交らして為す
 角を等分する一線を描く事を求む
- 第九 定二直線の間にて在る定点を通して此点の

為不等分せらるべき一線を挾み入るべし

第十 二等邊三角の底より各邊に底と等しき角を
為す所の三直線を引き其一線が底の端より他が
底線中より隨意に設けし点より引く時其始の一線
も他の二線の和に等しき者あり

第十一 定二直線に有する角の外ある定点より線
を引き此点より遠き線に迄到らしめ而して此線
を点より近き線に因て等分と為すを求む

第十二 考定第一圖に於てCA、CB線を延してD、E及
ひFに會せしめ若DF、EFが一直線をなすべし

第十三 直角三角の一鋭角他の鋭角の三倍ある者

あり此小角を以て三等分と為すを求む

第十四 三角の二邊の和を頂角及び底邊の中央を
結合せる直線の二倍より大あり

第十五 直角三角の弦と一直角邊の和或は差及び他
直角邊を定めて本形を画する事

第十六 定直線を二等分する事を求む此理より等
邊三角を九等分する事を得べし

第十七 二等邊三角の頂角底角の四倍ある時其
底線に垂線を一邊の端より引き是に對する邊を
伸して會せしめ等邊三角形を為す

第十八 三角の三個の角を各等分し引く直線の或

幾何學原礎卷一 何題解三

る一個を相對せる邊に會せべく延べ此線と他の直線に因て有つ角に前より擧ぐる邊に垂直に公点より引く直線と第三線に因て有つ角に等しき者あり

第十九 四邊圖の相對せる邊或は角等しき時此圖を平行邊形あり

第二十 頂角より底に迄の垂線及び其傍邊と是に隣接せる底の分線の各差を定めて三角を画く事

第二十一 平行邊形の角を等分せる直線に因て形造矩形の對角線を原の邊に平行せる者あり

第二十二 ACに直角にしてABに斜なる平行二直線

AD BC 何れ今 AC を E に於て截る所の BED の直線を引き ED AB の二倍に等しき時角 DBC の角を ABC の角の三分一ある事を顯せば

第二十三 平行邊形の斜線を等分せる直線が邊に會せる時を平行邊形を等分せば

第二十四 定点より二個の定る平行直線を横切て直線に引き其平行線の中間の部分を定直線に等しうらしめん事を求む

第二十五 直角三角の弦を等分せる点も三個の角より其距離を等しうせる者あり

第二十六 ABC の三角に於て BE CF を A 点を通せる直

線不垂直不引き且つDを以てBCを等分する時
DEもDFも等き者あり

第二十七 梯形の積も其平行二邊の和を底線と
此邊の距離を高さとしてたる平行邊形の積の折半
あり

第二十八 三角のAB、AC邊各の上不
を画き其DE、FGを延してH不於て會せ此二個の平
行邊形の積の和もAHも等しく且つ平行する所の
邊を有するBC上の平行邊形の積も等しくあり

第二十九 二等邊三角の等邊の一個不於ける定点
より他の邊不迄直線を引き新不成立三角を定三

角不等しくらりめん事を求む

第三十 若し三角の一角直角にして他の一角直角
の三分二ある時弦の上の等邊三角も他の二邊
各の上の等邊三角の和も積も於て等きあり

第三十一 四邊圖を普通の一角を有する同積の三
角不變し得べし此理より或る直線圖を三角不變
し其底角を圖中の一角を以て定め其底線も其圖
中の一邊を以てせん事を求む

第三十二 三角を他の三角不變し定高と等しくら
しむ事を求む

第三十三 定一直線不於てABをACの半不取りB、C

より平行線を引きA点を通る他の直線はD、E
に於て平行線を截る時をADをAEの半BDをCEの半
ABDの三角をACEの三角の四分一あり又は互に反して
BD、CEの平行ある事を證明せよ

第三十四

ABCの三角のAB、AC邊をD、E点に因て等分

し此D、E点より直線DE、EFをBE、ABに平行し引き而
してDCFの三角の三邊の和をABCの三角の各を等分
せべく角より引く三直線の和に等き者あり

第三十五

ABCDの四邊圖の對角線BDを等分せるE点

を通りて直線FEGをACに平行して引く時をAGに因
て此圖を折半とある者あり

第三十六

定三角ABCの一邊BCに垂直しBD、CEを引き

各中垂線の二倍とせAB、ACをF、Gに於て等分しED
GEを引く時をABCの三角恰も底角の二個或は一個
鋭角あるに從てBDF、CEGの三角の和或は差に等しき
事明りあり

第三十七

斜線に因て四邊圖を四個の三角に分つ

其相對せる三角等き時を相對せる二邊平行せば

第三十八

三角の角点と相對せる邊の中央ある点

を連る直線は内部の一点に會する者あり而して
此三角を三等部とある者あり

幾何學原礎卷一 例題解式

第三十九 前題不於て或る一線内部点不因て分た
る一其一分隻其他の二倍ある者あり

第四十 三角の二邊を定め若し此二邊不有たる角
直角ある時其積最大あるべし

第四十一 平行邊形の内部不阿る一点より相對せ
る邊の兩端不引く直線不因て成る二個の三角の
和を平行邊形の半あり

第四十二 梯形の斜邊の兩端より相對せる邊の中
央の点を連る直線不因て成立つ三角を梯形の半
あり

第四十三 二等邊三角の底線の兩端より邊不垂線
あり

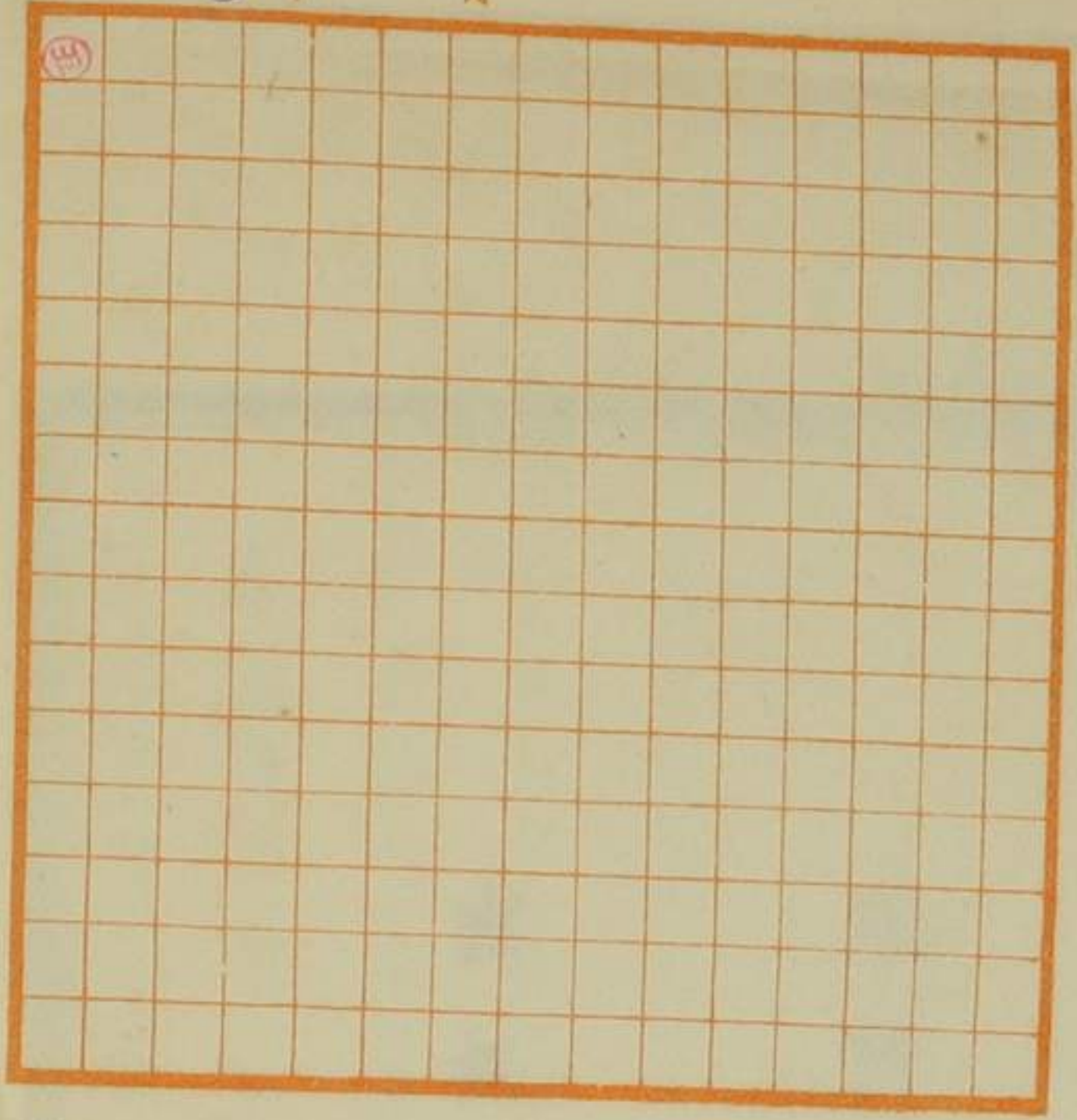
を引き其切合点と頂角を結ぶ線を引伸せ時其
底線を直角不等分せばし

第四十四 三角の二個不外角を等分せる直線の切
合点より是れ對せる角を連る直線其角を等分
せる者あり

第四十五 考定第四十七圖不於てFG, KHをM不於て
會せべく引延し且つBCをL不於て截るべくMAを
延る時其MLをBC不垂直あり而してAL, BK, CEの三直
線其凡て一点不會せる者あり

幾何學原礎卷一 例題解式 終

5年 月



版權免許
明治十三年八月出版

明治十三年七月十七日

定價金四拾錢

此作何學府藏卷一依是解三

者 人

静岡縣士族

川北朝鄰

東京牛込區牛込町五十一番地

同 平民

廣瀨市藏

静岡江川町十二番地

版權免許
明治十三年七月十七日
明治十三年八月出版

定價金四拾錢

編輯者

静岡縣士族

川北朝鄰

東京牛込區牛込青町五十一番地

出版人

同 平民

廣瀨市藏

静岡江川町十二番地

幾何學原典卷一
何是解三

